Nikon

SB-50DX（Jp）

スピードライト SB-50DX

Jp

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠警　告（スピードライトについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。

発光禁止

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

安全上のご注意—つづき—

発光禁止

発光部を人体やものに密着させて発光させないこと
やけどや発火の原因となります。

⚠注　意（スピードライトについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は、幼児の手の届かない所に置くこと
ケガの原因になることがあります。

注意

強い衝撃を与えないこと
内部が故障し、はれつ、発火の原因になることがあります。

溶剤清掃禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使ってふかないこと
また、ナフタリン、しょうのうの入った場所に保管しないこと
プラスチックケースが割れて火災や感電の原因となることがあります。

電池を取る

保管するときには電池を外すこと
発火、液もれの原因となることがあります。

⚠警　告（電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告・注意を守ること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、水に濡らさないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

充電式電池以外は充電しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

電池を取る

使い切った電池はすぐに器具から取り出すこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

注意

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

注意

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

はじめに

■このたびはニコンSB-50DXをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。
SB-50DXは、次のような機能・特長を備えています。

- 使用するカメラとレンズとの組み合わせに応じて、各種TTLモードでの撮影（☞P.30）やマニュアルフル発光撮影（☞P.35）が可能な、ガイドナンバー22（照射角35m時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。また、ニコンデジタル一眼レフカメラと組み合わせた場合、D-TTLモードでの撮影が可能です（☞P.31）。

- オートパワーズームにより、照射角が使用レンズの焦点距離（24mm〜50mm）に連動します（一部のカメラとレンズの組み合わせ時を除く ☞P.20）。さらに、内蔵ワイドパネル装着時には、照射角が14mmになります（☞P.21）。

- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向18°の範囲で回転し、バウンス撮影（☞P.44）や近接撮影（☞P.47）を簡単に行うことができます。

- スピードライト内蔵一眼レフカメラと組み合わせて使用すると、2灯発光（内蔵スピードライトとSB-50DX）撮影が行えます（☞P.46・58）。また、2灯発光（バウンス）撮影時に便利な減光板（☞P.46）を標準装備しています。

- 増灯撮影時には、ワイヤレス増灯撮影（☞P.52）も可能です。

- 付属の赤外パネルSW-9IRを装着すると、SB-50DXを赤外線リモートコマンダーとして使用できます（☞P.57）。

- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルにイルミネーターを備えています（☞P.12）。また、背面表示に蓄光性塗料を使用しています（☞P.10）。

ご確認ください

■ 保証書について

この製品には保証書が添付されていますのでご確認ください。

・保証書の詳細につきましては、P.73の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■ 使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■ 撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、スピードライトが正常に機能するかを事前に確認してください。

・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■ 定期的に点検サービスを受けてください

スピードライトは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。

・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのカメラやレンズ等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■ 本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のカメラ及びレンズなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

■ 付属品について

この製品には次のような付属品が同梱されていますのでご確認ください。

ソフトケース SS-50　　赤外パネル SW-9IR（☞ P.57）

目次

各部の名称と主なはたらき

① **フラッシュヘッド** ☞P.19
上方向90°から下方向18°の範囲で回転させることができます。

② **ワイドパネル** ☞P.21
フラッシュヘッドに取り付け、焦点距離14mmのレンズ画角に照射角を広げます。また、近接撮影時にも使用します。

③ **アクティブ補助光窓** ☞P.40
オートフォーカス撮影時、被写体が暗い場合にはピント合わせをするためのアクティブ補助光を自動的に照射します。

④ **減光板** ☞P.46
2灯発光（バウンス）撮影時、内蔵スピードライトの光を弱めます。

⑤ **操作ボタンの組み合わせ早見表**
- **TTL調光アンダー量の再表示** ☞P.25
- **アクティブ補助光の照射禁止** ☞P.41
- **サウンドモニタのキャンセル** ☞P.54

減光板を持ち上げると、操作ボタンの組み合わせ早見表があります。

⑥ **カメラ連動接点**

⑦ **内蔵スピードライト検出レバー** ☞P.46・55・58
スピードライト内蔵カメラに取り付けて内蔵スピードライトを併用して撮影する場合、内蔵スピードライトを自動的に検出します。

⑧ **ワイヤレススレーブセンサー窓** ☞P.52
ワイヤレス増灯撮影時､マスタースピードライトの発光を検知します。

⑨ **フラッシュヘッド回転角度目盛** ☞P.18

⑩ **表示パネル** ☞P.12

⑪ **レディライト** ☞P.16・25
充電完了時に点灯します。また、TTL／D-TTLモードでの撮影時にフル発光し、露出不足のおそれがある場合、発光後に点滅して警告します。

⑫ **FLASHボタン** ☞P.16
テスト発光を行う時に使用します。

⑬ **イルミネーター／SLAVEボタン** ☞P.12／52
表示パネルのイルミネーターを点灯させます。また、約1秒間押し続けるとワイヤレスモードにセットされます（ワイヤレス増灯撮影時のみに使用します)。

⑭ **ON／OFFボタン** ☞P.16

⑮ **－ボタン** ☞P.39
調光補正をセットする場合に、光量補正値を減少させる時に使用します。

⑯ **＋ボタン** ☞P.39
調光補正をセットする場合に、光量補正値を増加させる時に使用します。

⑰ **MODEボタン** ☞P.22
発光モードをセットする時に使用します。

⑱ **ZOOMボタン** ☞P.20
照射角をセットする時に使用します。

⑲ **ロックレバー** ☞P.19

⑳ **電池ぶた** ☞P.16

㉑ **取り付け脚**

㉒ **ロックプレート** ☞P.19

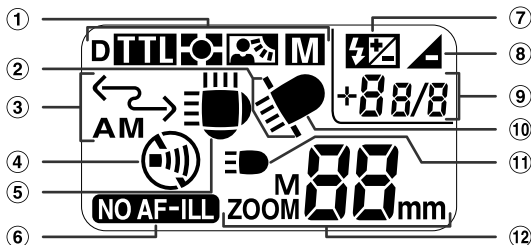
㉓ **赤外パネル SW-9IR** ☞P.57
フラッシュヘッドに装着すると、赤外線リモートコマンダー撮影が行えます。

メモ　背面表示

周囲が暗い場合でも操作しやすいように、背面表示には蓄光性塗料を使用しています。

表示パネル

■表示パネルの表示内容

- この図は説明のために全表示を点灯させた状態を示しています。

① 発光モード表示 ☞P.22
D：D-TTLモード表示
TTL：TTLモード表示
：マルチエリアBL調光表示
：TTL-BL調光表示
M：マニュアルフル発光表示
② ワイドパネル表示 ☞P.48
③ ワイヤレスモード表示 ☞P.52
④ サウンドモニタOFF表示 ☞P.54
⑤ 上方向／2灯発光（正面位置）表示 ☞P.19／58
⑥ アクティブ補助光強制禁止表示 ☞P.41
⑦ 調光補正表示 ☞P.39
⑧ TTL調光アンダー表示 ☞P.25
⑨ TTL調光アンダー量表示／光量補正値 ☞P.25／39
⑩ 下方向（近接撮影）表示 ☞P.19
⑪ 内蔵スピードライト表示 ☞P.46・58
⑫ 照射角表示 ☞P.20

■表示パネルの特性

- 表示パネルの液晶には指向性があります。斜め上から見ると読み取りにくくなりますが、やや下の方向から見ると読み取りやすくなります。
- 約60℃以上の高温下では、一時的に液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば表示も正常に戻ります。
- 低温下では液晶の応答速度が多少遅くなり、表示が読み取りにくくなったり、表示の切り換わりに時間がかかったりすることがありますが、常温に戻れば正常に戻ります。

■イルミネーター

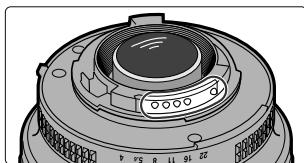
- 周囲が暗くて表示パネルの表示が読み取りにくい場合に、SB-50DXの電源がONの状態でイルミネーター（SLAVE／☼）ボタンを押すと、イルミネーターが点灯して、読み取りやすくなります。もう一度イルミネーターボタンを押すと消灯します（点灯後何も操作しないまま約16秒経過すると自動的に消灯します）。

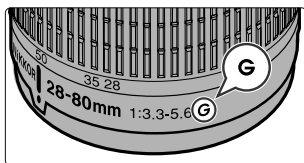
レンズについて

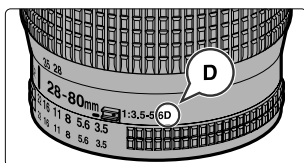
ニッコールレンズには、「CPU内蔵ニッコール」と「CPU内蔵ニッコール以外」のレンズがあります。この使用説明書では、それぞれのレンズを以下のように分類して説明しています。

CPU内蔵ニッコール （CPUレンズ）	Gタイプレンズ Dタイプレンズ GタイプおよびDタイプ以外のAFレンズ （F3AF用を除く） Ai-Pレンズ
CPU内蔵ニッコール以外 （非CPUレンズ）	Ai-Sレンズ Aiレンズ シリーズEレンズ等

■CPUレンズの見分け方

- CPUレンズにはCPU信号接点があります。

■Gタイプレンズについて

- レンズ本体には絞りリングが無く、被写体までの距離情報をカメラボディへ伝達する機能があるレンズです。ただし、装着するカメラによっては、使用できる露出モードに制限があります（詳細はGタイプレンズの使用説明書をご覧ください）。

■Dタイプレンズについて

- 被写体までの距離情報をカメラボディへ伝達する機能があるレンズです（詳細はDタイプレンズの使用説明書をご覧ください）。

作例写真（バウンス撮影 ☞P.44）

SB-50DXと内蔵スピードライトの2灯発光によるバウンス撮影

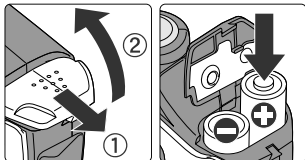
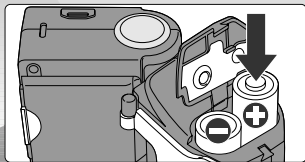
1灯発光によるバウンス撮影

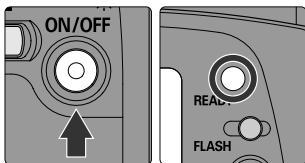
通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

撮影の基本ステップ

ここでは、各ステップの左ページに基本的な操作手順を説明しています。SB-50DXを初めてお使いになる方でも、左ページを順にお読みいただければ、簡単にスピードライト撮影が行えます。また、右ページは関連する内容を説明しています。

電池を入れ、電池容量を確認します。

SB-50DXには3Vリチウム電池（CR123A、またはDL123Aタイプ）を2本使用します。他の電池、電源は使用できません。

1. 電池ぶたを開けて、電池室内の＋－の表示にしたがって電池を入れ、電池ぶたを押さえながらスライドさせて閉じます。

- 2本とも同じメーカーの新品電池を使用してください。

2. ON／OFFボタンを押し、レディライトの点灯を確認します。

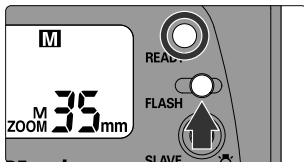
- レディライトが点灯するまでの時間が約30秒を超える場合は、電池を交換してください。

! 注意　電池の保管のご注意

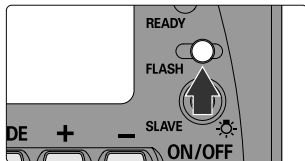
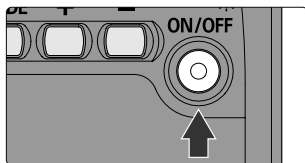
電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください（安全上のご注意 ☞P.2、電池の取り扱いについて ☞P.71）。

✓ ここをチェック！

- 海外等へお出かけの際は、予備の電池をご用意ください。

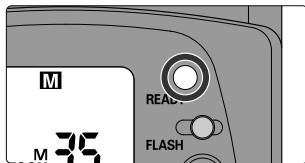
メモ　テスト発光

電源をONにして、レディライトが点灯するのを確認してからFLASHボタンを押すと、テスト発光を行うことができます。マニュアルフル発光（☞P.35）時は1／1のフル光量で発光します。TTL／D-TTLモード（☞P.29）時はフル光量の約１／16の光量で発光します。テスト発光を行う場合は、発光部に目を近づけないようご注意ください。

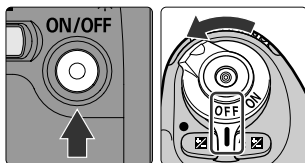
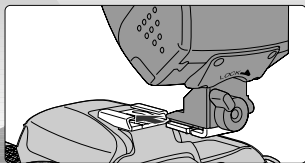
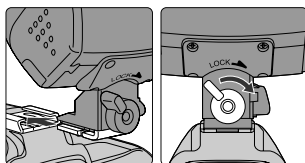
■ON／OFFボタンとスタンバイ機能

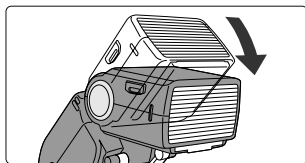
- ON／OFFボタンを一度押すと電源はONとなって表示パネルが点灯し、もう一度押すと電源はOFFとなって表示パネルが消灯します。
- スタンバイ機能により、SB-50DXの操作をしないまま約40秒経過すると、電源は自動的にOFFになります。また、ワイヤレスモード（☞P.52）にセットした時、カメラに取り付けた場合は通常時と同様に約40秒経過すると電源はOFFになりますが、スレーブスピードライト（☞P.52）として使用する場合は約1時間に延長されます。
- TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラ（☞P.32）に装着されている場合、カメラの半押しタイマーがOFFになると、SB-50DXの電源もスタンバイOFFになります。
- スタンバイ機能でOFFになった電源をONにするには、SB-50DXのON／OFFボタン、またはFLASHボタンを押します（この時、SB-50DXは発光しません）。また、TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラに装着されている場合は、カメラの半押しタイマーがONになると、SB-50DXの電源もONになります。
- スタンバイ機能は解除することができません。

! 注意　ON／OFFボタンで電源をOFFにしてください

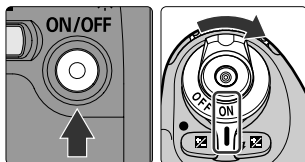
SB-50DXをスタンバイ機能で電源がOFFになった状態でバックなどに入れて持ち運ぶと、誤発光や誤動作、電池の消耗などのおそれがありますので、完全に電源をOFFにしてください。完全に電源をOFFにするには、表示パネルが点灯している状態で、ON／OFFボタンを押し、表示パネルの消灯を確認してください。

■発光間隔と電池交換の目安

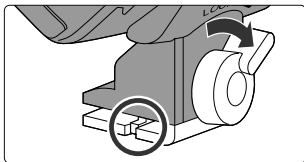
- マニュアルフル発光後に次の発光が可能になるまでの時間は、約3.5秒です（新品電池使用時）。
- 発光後、レディライトが点灯するまでの時間が約30秒を超える場合は、電池を交換してください。また、約40秒経過してもレディライトが点灯しない場合は、電源がOFFになります。
- 発光回数は、新品電池を使用して約260回（マニュアルフル発光時）です。

カメラに取り付けます。

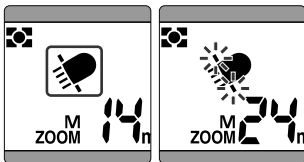
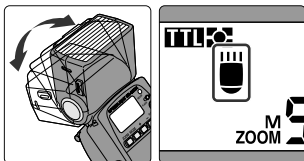
SB-50DXおよびカメラの電源をOFFにして、SB-50DXをカメラに取り付けます。

1. SB-50DXおよびカメラの電源をOFFにします。

2. SB-50DXをカメラに取り付け、ロックレバーをイラストの矢印の方向に回してロックします。

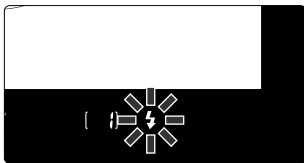
- 取り外す時は、ロックレバーを逆の方向に回し、ロックを解除してください。

3. フラッシュヘッドを正面水平にセットします。

- フラッシュヘッドの回転角度目盛を0゜に合わせます。

4. SB-50DXおよびカメラの電源をONにします。

■ロックレバー

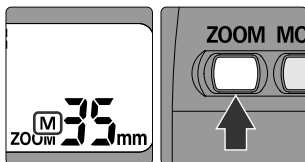
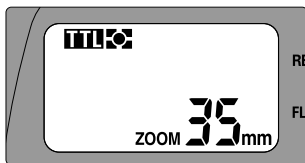
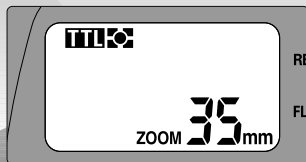
- SB-50DXをカメラに取り付け、ロックレバーを矢印の方向に回すと、SB-50DXのロックプレートがカメラのアクセサリーシューを押さえ、不用意に外れるのを防ぎます。

■フラッシュヘッド

- 通常の撮影ではフラッシュヘッドの位置は正面水平ですが、バウンス撮影（☞P.44）や近接撮影（☞P.47）などの場合、上方向90°から下方向18°の範囲でフラッシュヘッドをセットすることができます（上方向90°、75°、50°、正面、下方向18°にクリック位置があります）。
- 正面以外にセットすると表示パネルに、上方向の場合はが、下方向の場合はが点灯します（下方向でワイドパネルが装着されていない時は、ワイドパネルの使用をすすめるが点滅します☞P.48）。
- 詳しくは、P.44の「フラッシュヘッドの回転角度」をご覧ください。

■ファインダー内レディライトの点滅

- カメラのファインダー内レディライトが点滅している時、下記の場合を警告しています。
  - **・SB-50DXが確実にカメラに取り付けられていない場合（FE10をのぞく）。**
  - **・カメラにセットしたフィルムのISO感度が高感度側にフィルム（撮像）感度連動範囲外の場合（EグループおよびAS-17を装着したF3シリーズ、FM3AをのぞくFグループカメラの場合☞P.33）。**

メモ　フィルム（撮像）感度連動範囲

TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なフィルム（撮像）感度連動範囲は、最大でISO感度25～1600です。ただし、このフィルム（撮像）感度連動範囲は、使用するカメラによって異なります（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。

3 照射角をセットします。

SB-50DXは、照射角が24mm、28mm、35mm、50mmの4段階に変化します。また、ワイドパネルを装着すると14mmに固定されます。

1. SB-50DXにデジタルデータ通信を行うカメラとCPUレンズを組み合わせて使用する場合、照射角が自動的にセットされます。これをオートパワーズームといいます。

- レンズの焦点距離が24mm、28mm、35mm、50mm以外の場合は、使用レンズの焦点距離に最も近い広角側の照射角にセットされます（下表参照）。
- 表示パネルの照射角表示に**M**表示が点灯していない場合、照射角はオートパワーズームによりセットされています。**M**表示が点灯している場合は、ZOOMボタンを数回押して**M**表示を消灯させてください。
- 意図的に照射角を変えたい場合は、マニュアルで照射角をセットすることも可能です（右ページ）。
- ワイドパネルを装着、またはフラッシュヘッドを正面以外にセットするとオートパワーズームの作動は停止します。

CPUレンズの焦点距離またはズーム位置	オートパワーズームの照射角
24mm〜27mm	ZOOM 24mm
28mm〜34mm	ZOOM 28mm
35mm〜49mm	ZOOM 35mm
50mm〜	ZOOM 50mm

! 注意　照射角とガイドナンバー

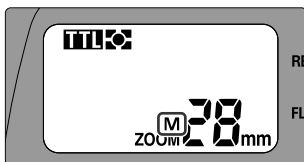
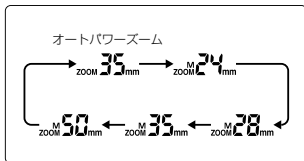
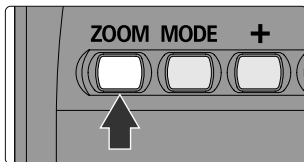
セットする照射角によって、ガイドナンバーが異なります（☞P.37）。

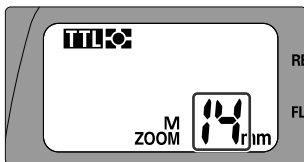
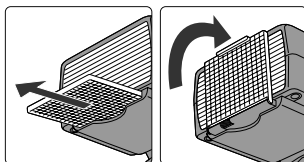
メモ　デジタルデータ通信

使用するカメラがA、Bグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合（☞P.32）、SB-50DXとデジタルデータ通信を行います。CPUレンズを装着すると、カメラを通してレンズに関する焦点距離情報などがSB-50DXに自動的に伝えられます。

■マニュアルで照射角をセットする場合

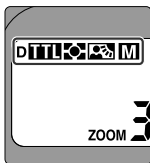
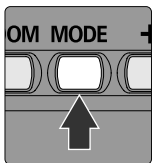
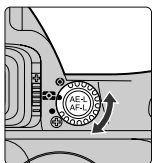
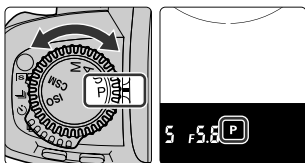
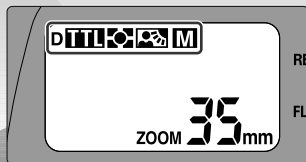
- オートパワーズームを使用しないで照射角をセットする時や、オートパワーズームが作動しないカメラやレンズとの組み合わせの場合は、ZOOMボタンを押して照射角をセットします。
- ZOOMボタンを押すごとに、照射角は24mm、28mm、35mm、50mmの4段階に変化して、表示パネルに表示されます（ワイドパネル使用時は14mm固定）。オートパワーズームが作動するカメラとレンズの組み合わせの場合は、50mmの次に一度オートパワーズームが作動し、さらにZOOMボタンを押すと24mmにセットされます。

- マニュアルで照射角をセットした場合、表示パネルの照射角表示にマニュアルを意味する**M**表示が点灯します。
- 通常はレンズの焦点距離と同じ照射角、または焦点距離に最も近い広角側の照射角にセットします（左ページの表と同様になります）。

■ワイドパネル

- 使用するレンズの焦点距離が14〜23mmの場合はワイドパネルを使用してください。
- フラッシュヘッドの下部に収納されているワイドパネル全体をまっすぐ引き出し、フラッシュヘッドに装着すると、照射角が14mmになります。表示パネルの表示は自動的に14mmに変わり、オートパワーズームの作動は停止します。
- ワイドパネルを収納するには、フラッシュヘッドからワイドパネルを倒し、まっすぐ奥まで押し込みます。
- 一般的に14mmレンズを使用した撮影では、カメラから撮影画面中心の被写体までの距離に対して、撮影画面周辺の被写体までの距離が著しく遠くなります。これにより、条件によっては撮影画面周辺の被写体が十分に照明されない場合があります。

! 注意　バウンス撮影等の照射角

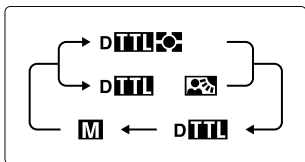
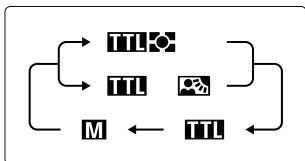
照射角は、バウンス撮影（☞P.44）や近接撮影（☞P.47）など、フラッシュヘッドを上方向にセットすると50mmに、下方向にセットすると24mmに自動的に固定されます。ただし、ワイドパネルを装着すると上方向、下方向共に、14mmに固定されます。

カメラとSB-50DXのモードをセットします。

発光モードをTTL／D-TTLモードにセットすると、撮影状況に応じて発光量が自動的に制御される各種TTL調光撮影が行えます。

1. カメラの露出モードをプログラムオート（P）、測光モードをマルチパターン測光にセットします。

- プログラムオート（**P**）が使用できない場合は、他の露出モードを使用してください（☞P.28）。また、マルチパターン測光が使用できない場合は、中央部重点測光を使用してください。
- シャッタースピードは、自動的に同調シャッタースピードにセットされます（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。また、シャッター優先オート（**S**）やマニュアル（**M**）の場合、同調シャッタースピードより低速側にセットすることも可能です。

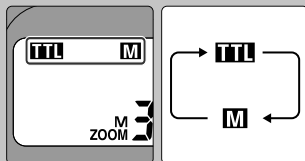
2. 発光モードをTTL／D-TTLモード（☞P.29）にセットします。

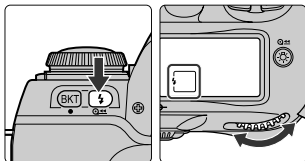
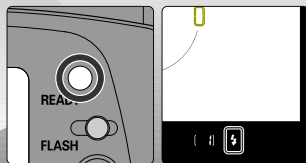
- MODEボタンを１回押すごとに、マルチエリアBL調光またはTTL-BL調光、スタンダードTTL調光、マニュアルフル発光にセットされ、表示パネルにそれぞれのモード表示が点灯します。表示パネルに、TTL、TTL、TTLのいずれかが点灯した場合がTTLモードにセットされた状態です。
- ニコンデジタル一眼レフカメラと組み合わせた場合は、D-TTLモード（☞P.31）となり、表示パネルにD-TTLモードを示す**D**表示が点灯します。
- 使用可能な発光モードは、カメラ、レンズ、露出モード、測光モードとの組み合わせにより異なります（詳細はP.32の表とカメラの使用説明書をご覧ください）。

メモ　TTLによるスピードライト自動調光

カメラのシャッターボタンを押し、スピードライトが発光すると、スピードライトに照らされた被写体からの反射光を、カメラがレンズを通して測光し、適正露出になるように発光量を自動的に制御します。SB-50DXは、使用するカメラ、レンズ、露出モード、測光モードの組み合わせにより、主要被写体と背景光のバランスを考慮してコントロールする、マルチエリアBL調光（☞P.29）やTTL-BL調光（☞P.30）による撮影が可能です。また、ニコンデジタル一眼レフカメラと組み合わせて使用する場合は、D-TTLモードによる撮影が可能です。ただし、使用するカメラによってはTTL／D-TTLモードでの撮影が行えない場合があります（マニュアルフル発光撮影を行ってください ☞P.35）。

注意　マルチエリアBL調光とTTL-BL調光のいずれにもセットできない場合

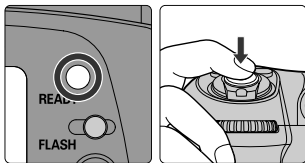
SB-50DX単体（カメラに未装着の状態）の時や、カメラ、レンズ、露出モード、測光モードの組み合わせにより、使用可能な発光モードがスタンダードTTL調光（☞P.30）とマニュアルフル発光のみの場合（詳細はP.32の表とカメラの使用説明書をご覧ください）は、マルチエリアBL調光とTTL-BL調光のいずれにもセットすることができません。MODEボタンを１回押すごとに、スタンダードTTL調光、マニュアルフル発光にセットされ、表示パネルにそれぞれのモード表示が点灯します。

撮影の基本ステップ

撮影します。

カメラのシンクロモードをセットし、レディライトの点灯を確認して撮影します（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。

1. カメラのシンクロモードをセットします。

- 通常の撮影では、先幕シンクロにセットしてください。
- シンクロモードをセットすることができないカメラの場合は、自動的に先幕シンクロになります。

2. 構図を決めて、ピントを合わせ、レディライトの点灯を確認して撮影します。

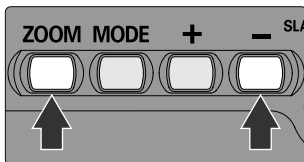
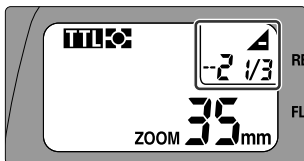
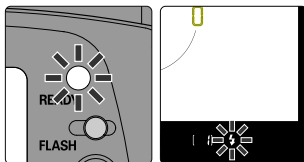
- SB-50DXの充電が完了して撮影が可能な状態になると、SB-50DXのレディライト点灯と同時に、カメラのファインダー内レディライトも点灯します。

! 注意　D1シリーズ使用時のシンクロモードについて

D1シリーズを低振動モードにセットしてSB-50DXと組み合わせて使用する場合は、後幕シンクロモードにセットしてください。

! 注意　F90シリーズは後幕シンクロにセットできません

F90シリーズは後幕シンクロを備えていますが、SB-50DXと組み合わせて使用する場合、後幕シンクロにセットすることはできません（F90Xシリーズでは使用可能です）。

■発光直後のレディライト点滅

- TTL／D-TTLモードでの撮影時にSB-50DXがフル発光して露出不足のおそれがある場合、撮影直後にSB-50DXおよびカメラのファインダー内のレディライトが約3秒間点滅して警告します（使用するカメラによりSB-50DXのみ、またはカメラのみが点滅する場合があります）。この場合、被写体との距離を短くするか、または露出モードを絞り優先オート（**A**）やマニュアル（**M**）にセットして、下表のTTL調光距離範囲にあてはまる絞りにセットして、再度撮影することをおすすめします。

■TTL調光アンダー量の表示

- 使用するカメラが、Aグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合（☞P.32）、上記のレディライトの点滅と同時に、SB-50DXの表示パネルに◢が点滅し、露出不足量の目安となるTTL調光アンダー量を約3秒間表示します(表示範囲は0〜－3.0EVです)。
- TTL調光アンダー量は、撮影直後に約3秒間表示すると消えますが、**ZOOMボタンと－ボタン**を同時に押すと、押している間だけ、再表示させることができます。

メモ　TTL調光距離範囲

TTL／D-TTLモード時のフィルム（撮像）感度連動範囲と使用可能な絞りと調光距離範囲の目安は下表のとおりです（14mmはワイドパネル使用時）。

例：ISO感度400、絞りf8、照射角35mmの時、TTL調光距離範囲は0.6〜5.5mです。

	ISO感度							照射角					
	25	50	100	200	400	800	1600	14mm	24mm	28mm	35mm	50mm	
絞り	–	–	1.4	2	2.8	4	5.6	0.8〜8.4	1.2〜12	1.3〜14	1.4〜15	1.7〜18	TTL調光距離範囲(m)
	–	1.4	2	2.8	4	5.6	8	0.6〜6.0	0.8〜9.0	0.9〜10	1.0〜11	1.2〜13	
	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	0.6〜4.2	0.6〜6.3	0.7〜7.0	0.7〜7.7	0.9〜9.1	
	2	2.8	4	5.6	8	11	16	0.6〜3.0	0.6〜4.5	0.6〜5.0	0.6〜5.5	0.6〜6.5	
	2.8	4	5.6	8	11	16	22	0.6〜2.1	0.6〜3.1	0.6〜3.5	0.6〜3.8	0.6〜4.6	
	4	5.6	8	11	16	22	32	0.6〜1.5	0.6〜2.2	0.6〜2.5	0.6〜2.7	0.6〜3.2	
	5.6	8	11	16	22	32	45	0.6〜1.0	0.6〜1.5	0.6〜1.7	0.6〜1.9	0.6〜2.3	
	8	11	16	22	32	45	–	0.6〜0.7	0.6〜1.1	0.6〜1.2	0.6〜1.3	0.6〜1.6	
	11	16	22	32	45	–	–	0.6	0.6〜0.8	0.6〜0.8	0.6〜0.9	0.6〜1.1	
	16	22	32	45	–	–	–	–	–	0.6	0.6〜0.7	0.6〜0.8	

作例写真（近接撮影 ☞P.47）

各機能の詳細

SB-50DXの各機能の詳細を説明しています。

露出モードがS、A、Mでの撮影

使用可能な露出モードやセット方法は、使用するカメラにより異なります（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。プログラムオート（P）についてはP.22の「基本ステップ4」をご覧ください。

■露出モードがシャッター優先オート（S）の場合

- **シャッタースピードを同調シャッタースピードより低速側にセットすることにより、背景光を考慮したスピードライト撮影が行えます。**
  - ・絞りはカメラが自動的にセットします。ただし、撮影距離が、セットされる絞りに対応するTTL調光距離範囲（☞P.25）に入るように、シャッタースピードをセットしてください。
  - ・シャッタースピードがスピードライトの同調シャッタースピードより高速側にセットしてあった場合、SB-50DXの電源をONにすると、自動的に同調シャッタースピードにセットされます。

■露出モードが絞り優先オート（A）の場合

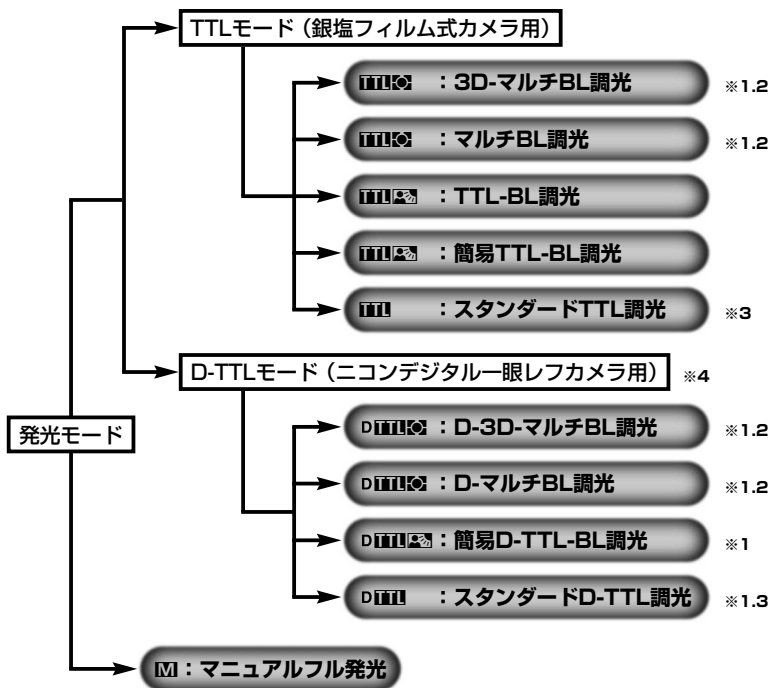
- **任意の絞りをセットすることにより、撮影者自身が被写界深度（ピントの合う前後の範囲）や撮影距離を考慮したスピードライト撮影が行えます。**
  - ・シャッタースピードはカメラが自動的にセットします。セットされるシャッタースピードの範囲は使用するカメラによって異なります。詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。
  - ・絞りをガイドナンバー計算（☞P.37）で求めるマニュアルフル発光撮影（☞P.35）時にも使用する露出モードです。
  - ・絞りは、ガイドナンバー（☞P.37）とTTL調光距離範囲を参考にセットしてください。

■露出モードがマニュアル（M）の場合

- **任意のシャッタースピードと絞りをセットすることにより、背景光、被写界深度、撮影距離などを考慮したスピードライト撮影が行えます。**
  - ・シャッタースピードがスピードライトの同調シャッタースピードより高速側にセットしてある場合、SB-50DXの電源をONにすると、自動的に同調シャッタースピードにセットされます（FM3Aをのぞく）。
  - ・絞りをガイドナンバー計算で求めるマニュアルフル発光撮影時にも使用する露出モードです。
  - ・絞りは、ガイドナンバーとTTL調光距離範囲を参考にセットしてください。
  - ・使用するカメラがF70Dの時に、内蔵スピードライトを使用して2灯発光撮影（☞P.46・58）を行う場合に使用する露出モードです。
  - ・使用するカメラがF80シリーズ、ニコン*u2*およびF70Dの時に、内蔵スピードライトを使用してワイヤレス増灯撮影（☞P.52）を行う場合に使用する露出モードです。

発光モード

SB-50DXには発光モードとして、通常の銀塩フィルム式カメラ用のTTLモードとニコンデジタル一眼レフカメラ用のD-TTLモード、マニュアルフル発光があります。

- 発光モード
  - TTLモード（銀塩フィルム式カメラ用）
    - TTL : **3D-マルチBL調光** ※1.2
    - TTL : **マルチBL調光** ※1.2
    - TTL : **TTL-BL調光**
    - TTL : **簡易TTL-BL調光**
    - TTL : **スタンダードTTL調光** ※3
  - D-TTLモード（ニコンデジタル一眼レフカメラ用） ※4
    - D TTL : **D-3D-マルチBL調光** ※1.2
    - D TTL : **D-マルチBL調光** ※1.2
    - D TTL : **簡易D-TTL-BL調光** ※1
    - D TTL : **スタンダードD-TTL調光** ※1.3
  - M : **マニュアルフル発光**

※**1**：モニター発光を行います（☞P.31）。

※**2**：3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称して**マルチエリアBL調光**（D-TTLモードでは、**D-マルチエリアBL調光**）と呼びます。

※**3**：従来のTTL調光のことを、SB-50DXでは**スタンダードTTL調光**（D-TTLモードでは、**スタンダードD-TTL調光**）と呼びます。

※**4**：従来のD1専用TTLモードのことを、**D-TTLモード**と呼びます。

発光モード—つづき—

使用可能なTTLモードは、カメラ、レンズ、露出モード、測光モードの組み合わせにより異なります（詳細はP.32の表とカメラの使用説明書をご覧ください）。

■3D-マルチBL調光（Aグループカメラのみ）

TTL

- 測光情報とモニター発光による情報をもとに、GタイプまたはDタイプレンズから得られた被写体までの距離情報も加味して、主要被写体と背景光のバランス（BL）を考慮してコントロールする調光方式です。
- 撮影画面内に極端に反射率の高いものがある場合や、背景が大きく抜けている場合でも、自然な感じのスピードライト撮影が行えます。

■マルチBL調光（Aグループカメラのみ）

TTL

- 3D-マルチBL調光から距離情報を省略してコントロールする調光方式です（GタイプおよびDタイプレンズ以外のCPUレンズ使用時）。

■TTL-BL調光

TTL ／TTL

- マルチパターン測光による情報をもとに、主要被写体と背景光のバランス（BL）を考慮してコントロールする調光方式です。

■簡易TTL-BL調光

TTL ／TTL

- 中央部重点測光やスポット測光による情報をもとに、主要被写体と背景光のバランス（BL）を考慮してコントロールする調光方式です。
- TTL-BL調光に比べ、主要被写体と背景のバランスがややおおまかになる場合があります。

■スタンダードTTL調光

TTL

- 主要被写体が適正露出となるようにコントロールする調光方式です。
- 主要被写体を強調する場合などに適しています。

メモ　主要被写体と背景光のバランス

一般的に、TTLモード時の主要被写体と背景光のバランスに対する考慮の度合は、3D-マルチBL調光、マルチBL調光、TTL-BL調光、簡易TTL-BL調光、スタンダードTTL調光の順で弱まります（D-TTLモード時も同様に、D-3D-マルチBL調光、D-マルチBL調光、簡易D-TTL-BL調光、スタンダードD-TTL調光の順で弱まります）。どのTTL／D-TTLモードを使用するか、またはどのカメラ、レンズ、露出モード、測光モードを使用するかを決める際の目安にしてください。

SB-50DXとニコンデジタル一眼レフカメラを組み合わせて使用する場合は、常にモニター発光を行うD-TTLモードになります。使用可能なD-TTLモードは、レンズ、測光モードの組み合わせにより異なります（詳細はP.32の表とニコンデジタル一眼レフカメラの使用説明書をご覧ください）。

■D-3D-マルチBL調光

D TTL

- 測光情報とモニター発光による情報をもとに、GタイプまたはDタイプレンズから得られた被写体までの距離情報も加味して、主要被写体と背景光のバランス（BL）を考慮してコントロールする調光方式です。
- 撮影画面内に極端に反射率の高いものがある場合や、背景が大きく抜けている場合でも、自然な感じのスピードライト撮影が行えます。

■D-マルチBL調光

D TTL

- D-3D-マルチBL調光から距離情報を省略してコントロールする調光方式です（GタイプおよびDタイプレンズ以外のCPUレンズ使用時）。

■簡易D-TTL-BL調光

D TTL

- 中央部重点測光とモニター発光による情報をもとに、主要被写体と背景光のバランス（BL）を考慮してコントロールする調光方式です（非CPUレンズ使用時）。

■スタンダードD-TTL調光

D TTL

- 測光情報とモニター発光による情報をもとに、主要被写体が適正露出となるようにコントロールする調光方式です。
- 主要被写体を強調する場合などに適しています。
- 露出モードをスポット測光にセットした場合、自動的にスタンダードD-TTL調光にセットされます。

メモ　モニター発光

TTLモードのマルチエリアBL調光と、すべてのD-TTLモードでは、本発光直前にモニター発光を行います。被写体から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用センサーが瞬時に測光して適切な発光量を決めます（本発光直前のごく短い時間のため、本発光と区別して確認することはできません）。なお、TTLモードのマルチエリアBL調光で、フラッシュヘッドを上方向にセットした時や後幕シンクロ（☞P.24）、ワイヤレスモード（☞P.52）の場合、モニター発光は行いません。

TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラ

グループ	カメラ	TTL／D-TTLモード	レンズ		露出モード				測光モード			備考 (☞P.34)
			CPU	非CPU								
A	F5 F100	TTL [3D]	○		P	S	A	M	▣	◎		1
		TTL [BL]		○			A	M		◎		2
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.4
		TTL		○			A	M		◎	⊡	3.4
	F90Xシリーズ F90シリーズ F70D	TTL [3D]	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	1.5
		TTL [BL]		○			A	M		◎	⊡	2
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.5
		TTL		○			A	M		◎	⊡	3
	F80シリーズ	TTL [3D]	○		P	S	A	M	▣	◎		1
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎		3
		TTL	○	○				M			⊡	4.6
	ニコン*u2*	TTL [3D]	○		P	S	A		▣			1
		TTL	○		P	S	A		▣			3
		TTL	○	○				M		◎		6.7.8
B	F4シリーズ	TTL [BL]	○		P	S	A	M	▣			5
		TTL [BL]		○			A	M	▣			
		TTL [BL]	○		P	S	A	M		◎		2.5
		TTL [BL]		○			A	M		◎		2
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.4
		TTL		○			A	M	▣	◎	⊡	3.4
	ニコン*u*	TTL [BL]	○		P	S	A		▣			
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎		3.7.8
	F-801sシリーズ F-801シリーズ	TTL [BL]	○		P	S	A	M	▣			5
		TTL [BL]	○		P	S	A	M		◎	⊡	2.5.9
		TTL [BL]		○			A	M		◎	⊡	2.9
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.5.9
		TTL		○			A	M		◎	⊡	3.9
	プロネア600i	TTL [BL]	○		P	S	A		▣			
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.8
		TTL		○				M		◎	⊡	8
C	F-601 F-601M	TTL [BL・灰]	○		P	S	A	M	▣			10.11
		TTL [BL・灰]	○		P	S	A	M		◎	⊡	2.9.10.11
		TTL [BL・灰]		○			A	M		◎	⊡	2.9.10
		TTL	○		P	S	A	M	▣	◎	⊡	3.7.9.11.12
		TTL		○			A	M		◎	⊡	3.6.7.9.12
D	F60D F50D F-401X	TTL [BL・灰]	○		P	S	A		▣			10
		TTL [BL・灰]	○	○				M		◎		2.7.10

グループ	カメラ	TTL／D-TTLモード	レンズ		露出モード				測光モード			備考 (☞P.34)
			CPU	非CPU								
E	F-501 F-301	TTL	○	○	P		A	M		[中央部重点]		13.14
	F-401s F-401	TTL	○		P	S	A		[マルチパターン]			13
		TTL	○	○				M		[中央部重点]		7
F	FA	TTL	○	○	P		A	M	[マルチパターン]	[中央部重点]		14
	FG	TTL	○	○	P		A	M		[中央部重点]		14
	F3シリーズ（AS-17使用） FM3A FE2	TTL	○	○			A	M		[中央部重点]		14
	ニコノスV	TTL		○			A	M		[中央部重点]		15
デジタル一眼レフ	D1シリーズ	D TTL [マルチエリアBL]	○		P	S	A	M	[マルチパターン]	[中央部重点]		16.17
		D TTL [BL]		○			A	M		[中央部重点]		16
		D TTL	○		P	S	A	M	[マルチパターン]	[中央部重点]	[スポット]	16.18
		D TTL		○			A	M		[中央部重点]	[スポット]	16.18
	D100	D TTL [マルチエリアBL]	○		P	S	A	M	[マルチパターン]	[中央部重点]		16.17
		D TTL	○		P	S	A	M	[マルチパターン]	[中央部重点]	[スポット]	16.18
		D TTL		○				M				16

■表中のアイコンについて

● TTL／D-TTLモード

- TTL [マルチエリアBL]：マルチエリアBL調光
- TTL [BL]：TTL-BL調光（簡易TTL-BL調光）
- TTL：スタンダードTTL調光（TTL-BL調光、簡易TTL-BL調光）
- D TTL [マルチエリアBL]：D-マルチエリアBL調光
- D TTL [BL]：簡易D-TTL-BL調光
- D TTL：スタンダードD-TTL調光

● 露出モード

- **P**：プログラムオート
- **S**：シャッター優先オート
- **A**：絞り優先オート
- **M**：マニュアル

● 測光モード

- [マルチパターン]：マルチパターン測光
- [中央部重点]：中央部重点測光
- [スポット]：スポット測光

メモ　SB-50DXとデジタルデータ通信を行うカメラ

使用するカメラが、表中■のA、Bグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合、SB-50DXとデジタルデータ通信を行います（☞P.20）。

TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラ—つづき—

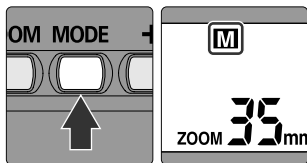
■備考

1 ：GタイプおよびDタイプレンズの場合、3D-マルチBL調光になります。
2 ：簡易TTL-BL調光になります。
3 ：スタンダードTTL調光にセットした場合です。
4 ：測光モードがスポット測光の場合、自動的にスタンダードTTL調光になります。
5 ：Gタイプレンズの場合、露出モードの**A**、**M**は使用できません。
6 ：非CPUレンズの場合、自動的にスタンダードTTL調光になります。
7 ：露出モードが**M**の場合、測光モードが自動的に中央部重点測光になります。
8 ：露出モードが**M**の場合、自動的にスタンダードTTL調光になります。
9 ：F-801、F-601Mの測光モードには、スポット測光がありません。
10 ：SB-50DXの表示パネルにはTTLのみ点灯しますが、実際にはTTL-BL調光になります（F601、F601Mの場合、表示がカメラの表示パネルに点灯します）。
11 ：F-601とGタイプレンズを組み合わせて使用できませんが、F-601Mでは、使用することができます（露出モードの**A**、**M**は使用できません）。
12 ：カメラ側の操作でカメラの表示パネルの表示を消灯させてスタンダードTTL調光にセットしてください。
13 ：露出モードが**P**または**S**の場合、**TTLプログラムフラッシュ**になります。
14 ：Gタイプレンズは使用できません。
15 ：陸上用シンクロコード（別売り）を使用してください。
16 ：D-TTLモードになります。
17 ：GタイプおよびDタイプレンズの場合、D-3D-マルチBL調光になります。
18 ：スタンダードD-TTL調光にセットした場合です（測光モードがスポット測光の場合、自動的にスタンダードD-TTL調光になります）。

マニュアルフル発光撮影

マニュアルフル発光では常にフル発光します。すべてのカメラ、レンズ、測光モードとの組み合わせで使用可能です。撮影者自身が絞りをセットすることにより、露出や撮影距離をコントロールできます。撮影距離は、ガイドナンバーと絞りから求めます。

■マニュアルフル発光での撮影方法

1. カメラの露出モードを絞り優先オート（A）、またはマニュアル（M）にセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
2. SB-50DXのMODEボタンを押して、発光モードをマニュアルフル発光にセットします。
   ・表示パネルに、Mが点灯した場合がマニュアルフル発光にセットされた状態です。

3. カメラのシンクロモードをセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
   ・通常の撮影では、先幕シンクロにセットしてください。
   ・シンクロモードをセットすることができないカメラの場合は、自動的に先幕シンクロになります。
4. ガイドナンバー（☞P.37）と撮影距離から、ガイドナンバー計算（☞P.37）を行い、絞りを算出し、セットします。
   ・マニュアルフル発光では常にフル発光します。発光量は一定ですので、露出のコントロールは絞りで行います。
   ・ズームレンズの中には、ズーミング（焦点距離の変化）により、絞り（明るさ）が変化するものがありますのでP.36をご覧ください。
5. 構図を決めて、ピントを合わせ、レディライトの点灯を確認して撮影します。

! 注意　マニュアルフル発光撮影時の露出モードについて

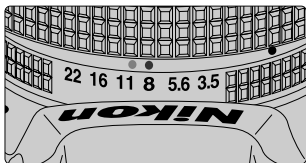
マニュアルフル発光撮影時には、絞りをセットする必要があります。撮影者自身が絞りをセットする絞り優先オート（A）またはマニュアル（M）以外の露出モードにセットした場合、使用するカメラによってはシャッターがきれないカメラがあります（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。

ズーミングによる絞りの変化

ズームレンズの中にはズーミング（焦点距離の変化）により、絞り（明るさ）が変化するものがあります（詳細はレンズの使用説明書をご覧ください）。AF Zoom-Nikkor 28～105mm f/3.5～4.5Dなどのように、レンズ名に2つの開放F値があるものが該当します。このようなレンズで絞りをセットする場合は、以下の点にご注意ください。

■絞りをカメラの表示パネルまたはファインダー内表示で確認できる場合

- ズーミングで構図（焦点距離）を決めた後、絞りをセットしてカメラの表示パネル、またはファインダー内表示で確認してください。なお、表示される絞りは、カメラが自動補正した値です。ただし、F5などのファインダー内絞り直読窓の絞り表示は、下記の「絞りをレンズの指標で読み取る場合」と同様ですので自動補正されません。

■絞りをレンズの指標で読み取る場合

- ズーミングで構図（焦点距離）を決めた後、広角側の時は緑色（または線）の絞り指標、望遠側の時は黄色（または点）の絞り指標から読み取ってください。また、中間域の場合は焦点距離に応じて、緑色（または線）指標と黄色（または点）指標の間で絞りを読み取ってください。
- Gタイプレンズは絞りリングが無いため該当しません。

■F-401x、F-401s、F-401にCPUレンズを組み合わせて使用する場合

- 露出モードを絞り優先オート（**A**）、またはマニュアル（**M**）にセットして、カメラの絞りダイヤルで確認してください。ズーミングによる絞りの変化はカメラが自動補正します。ただし、カメラの絞りダイヤルを、装着しているレンズの最小絞りより大きい数値、あるいは開放絞りより小さい数値にセットしても、それぞれ絞りはレンズの最小絞り、開放絞りにセットされます。
- 露出モードをプログラムオート（**P**）、またはシャッター優先オート（**S**）にセットすると、絞りを確認することができません。また、マニュアルフル発光撮影（☞P.35）時にはシャッターをきることができません。

ガイドナンバー

ガイドナンバー（ISO100・m、20℃）とは、スピードライトの光量を表す数値で、ISO感度と照射角によって変化します。

■ガイドナンバー計算

- ISO感度100の場合、ガイドナンバーは下表のようになります（14mmはワイドパネル使用時 ☞P.21）。

照射角	14mm	24mm	28mm	35mm	50mm
ガイドナンバー	12	18	20	22	26

- ガイドナンバーと撮影距離から、適正絞り（または基準となる絞り）を以下のガイドナンバー計算によって求めることができます。

F（絞り）=GN（ガイドナンバー）÷D（撮影距離・m）

また、撮影距離は、

D（撮影距離・m）=GN（ガイドナンバー）÷F（絞り）

で求められます。

- ISO感度100以外の場合、ガイドナンバーは上表のガイドナンバーに下表の係数を乗じた数値に変化します。

ISO感度	25	50	200	400	800	1600
係数	×0.5	×0.71	×1.4	×2	×2.8	×4

- 近接撮影時については、P.48をご覧ください。

■1/300TTL高速シンクロ時のガイドナンバー（F5使用時）

- ISO感度100の場合、ガイドナンバーは下表のようになります（14mmはワイドパネル使用時）。

照射角	14mm	24mm	28mm	35mm	50mm
ガイドナンバー	9.5	10	11	12	14

■合成ガイドナンバー

- 「スピードライト内蔵カメラと組み合わせた2灯発光撮影」（☞P.58）のSB-50DXと内蔵スピードライトの合成ガイドナンバー（GN）と「遠くの被写体までスピードライト光を届かせる場合」（☞P.66）の合成ガイドナンバー（GN）は、下の式によって求めることができます。ガイドナンバーは、ISO感度と照射角によって変化します。内蔵スピードライト、SB-50DX以外のスピードライトのガイドナンバーについては、各々の使用説明書をご覧ください。

「スピードライト内蔵カメラと組み合わせた2灯発光撮影」の合成ガイドナンバー（GN）

合成GN= $\sqrt{(\text{SB-50DXのGN})^2+(\text{内蔵スピードライトのGN})^2}$

「遠くの被写体までスピードライト光を届かせる場合」の合成ガイドナンバー（GN）

合成GN= $\sqrt{(\text{スピードライトAのGN})^2+(\text{スピードライトBのGN})^2+(\text{スピードライトCのGN})^2+\cdots}$

各々、上の式で求められた合成ガイドナンバーを用いてガイドナンバー計算を行ってください。

露出補正

露出補正とは、適正露出値を意図的に変えることをいい、撮影画面内に極端に反射率が高いものや低いものが存在する場合、あるいは意図的に露出をコントロールしたい場合に行います。被写体（たとえば人物など）に対して、背景が白くて反射率が高い場合は＋側に、背景が黒くて反射率が低い場合は－側に補正するのが一般的です。スピードライト撮影時には、撮影状況に応じて、主要被写体と背景光の両方、または主要被写体のみに露出補正を行うことができます。

■TTL／D-TTLモードでの撮影時に主要被写体と背景光の両方に補正を行う場合

- 発光モードがTTL／D-TTLモード（☞P.29）の場合に、カメラの露出補正ボタンやダイヤルの操作で露出補正を行うことにより、SB-50DXの光量と背景の露出の両方を補正します（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
- カメラでセットした補正値は、SB-50DXの表示パネルには表示されません。
- TTL／D-TTLモードのフィルム（撮像）感度連動範囲（☞P.25）を超えた補正は行えません。たとえば、ISO感度100のフィルムを使って、＋3段の補正をするとISO感度12相当になり、TTL／D-TTLモードのフィルム（撮像）感度連動範囲（ISO感度25～1600）を超えるため、補正の範囲は＋2段（ISO感度25相当）までです。

■マニュアルフル発光撮影時に主要被写体と背景光の両方に補正を行う場合

- 発光モードがマニュアルフル発光（☞P.35）の場合、適正絞り（または基準となる絞り）をガイドナンバー計算（☞P.37）により求めて、その値を参考にカメラ側の絞りを意図的に変えます。
- 補正の目安として、被写体を明るくしたい場合は絞りを開放側（小さい数値の絞り）に、暗くしたい場合は大きい数値の絞りにセットしてください。

■主要被写体のみに補正を行う場合

- 発光モードがTTL／D-TTLモードの場合に、背景の明るさを変化させずにSB-50DXの光量を補正し、SB-50DXに照らされた主要被写体に対してのみ行う露出補正を、調光補正といいます（☞右ページ）。
- 使用するカメラがA、B、Cグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合（☞P.32）のみ行えます。

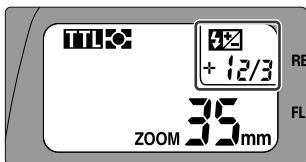
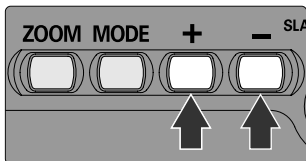
メモ　背景も写し込むスピードライト撮影

使用するカメラのシンクロモードをスローシンクロにセットした場合（☞P.24）や、露出モードをシャッター優先オート（**S**）またはマニュアル（**M**）にセットし、シャッタースピードを同調シャッタースピードより低速側にセットした場合は、背景も写し込んだスピードライト撮影が行えます。シンクロモード、露出モードは使用するカメラにより異なります（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。

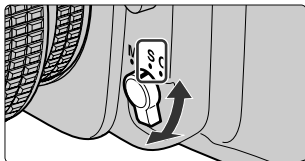
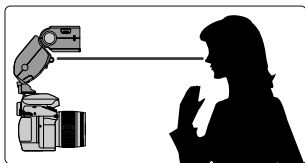
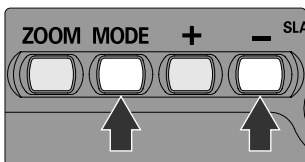
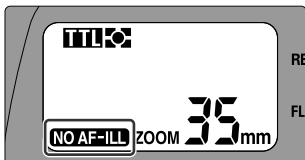
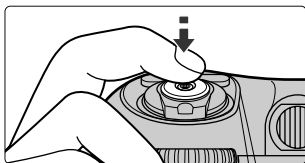
調光補正

背景露出を変えずにスピードライトの光量にのみ補正を行い、スピードライトに照らされた主要被写体の明るさだけを変えることを調光補正といいます。使用するカメラがA、B、Cグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合のみ行えます。

（コラム：作例写真 ☞P.42）

- 使用するカメラがA、B、Cグループカメラ、ニコンデジタル一眼レフカメラの場合のみ行えます。Cグループカメラの場合は、カメラ側でセットしてください（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
- 発光モードがTTL／D-TTLモードの場合に、SB-50DXの＋ボタンまたは－ボタンを押して、光量補正値をセットします。光量補正値はSB-50DXの表示パネルに表示され、調光補正を示す⚡が点灯します。
- 補正の範囲は、1／3ステップで－3段～＋3段までです（ニコンデジタル一眼レフカメラの場合は1／6ステップ）。
- 使用するカメラが、調光補正機能を備えたF80シリーズ、F70D、プロネア600iの場合は、SB-50DX、カメラ側のどちらでもセットできます（ステップと補正の範囲は、使用するカメラにより異なりますので詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。SB-50DXとカメラの調光補正機能を併用した時には、両方の補正量を加算して補正されます。ただし、SB-50DXの表示パネルには、SB-50DXでセットした光量補正値のみが表示されます。
- 調光補正を解除するには、＋ボタンまたは－ボタンを押して、光量補正値を0にセットして、⚡の消灯を確認してください（電源をOFFにしても調光補正は解除されません）。

暗い被写体をAFで撮影するには

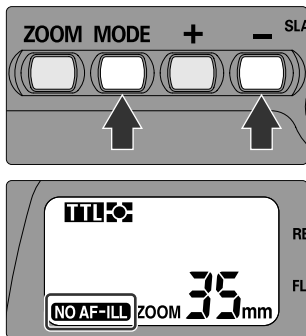
被写体が暗くオートフォーカスでのピント合わせが難しい場合でも、SB-50DXのアクティブ補助光によりオートフォーカスでのピント合わせが可能になります。

■アクティブ補助光

- アクティブ補助光は被写体が暗い場合に、カメラのシャッターボタンを半押しすると自動的に照射され、オートフォーカスでのピント合わせが完了すると、消灯します。
- SB-50DXの表示パネルにアクティブ補助光強制禁止を示す NO AF-ILL が点灯していない時、アクティブ補助光の照射が行われます。 NO AF-ILL が点灯している場合は、SB-50DXの**MODEボタンと－ボタン**を同時に押して、 NO AF-ILL の消灯を確認してください。
- アクティブ補助光は、AF（オートフォーカス）カメラとAF（オートフォーカス）レンズを組み合わせた場合、照射されます。
- 使用できるレンズの焦点距離の目安は24〜105mm（F-501は35〜105mm）です。また、アクティブ補助光が届く距離範囲の目安は約1〜5mです。
- カメラのフォーカスモードはシングルAFサーボ"S"（フォーカス優先モード）、"AF"または"A"にセットしてください（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
- フォーカスロックを行っている時や、レディライトが点灯していない場合には、アクティブ補助光は照射されません。
- 使用するカメラにAF補助光機能がある場合でも、SB-50DXのアクティブ補助光が優先され、自動的にアクティブ補助光が照射されます（カメラのAF補助光は照射されません）。ただし、使用するカメラがF60Dの場合にマニュアルフル発光撮影（☞P.35）を行うと、カメラのAF補助光が照射されます（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
- スピードライト内蔵カメラと組み合わせて2灯発光撮影（☞P.46・58）を行う時、使用するスピードライト内蔵カメラにより、SB-50DXのアクティブ補助光が照射されない場合があります。

メモ　フォーカスエリアを選択できるカメラを使用する場合

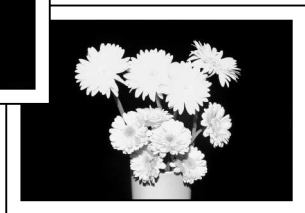
AFエリアモードをシングルエリアAFにセットして、中央のフォーカスエリアを選択（中央のフォーカスエリアを選択していない場合、アクティブ補助光は照射されません）するか、至近優先ダイナミックAFにセットしてください（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。

■アクティブ補助光の照射を禁止したい場合

- SB-50DXの**MODEボタンと－ボタン**を同時に押すと、SB-50DXの表示パネルにアクティブ補助光強制禁止を示す NO AF-ILL が点灯し、アクティブ補助光の照射を禁止することができます。
- アクティブ補助光の照射を禁止すると、被写体が暗い場合にオートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。
- アクティブ補助光の照射の禁止を解除するには、もう１度**MODEボタンと－ボタン**を同時に押して、NO AF-ILL の消灯を確認してください（電源をOFFにしてもアクティブ補助光の照射の禁止は解除されません）。
- 使用するカメラがF80シリーズ、ニコン*u2*およびニコン*u*の場合、SB-50DXのアクティブ補助光の照射を禁止すると、カメラのAF補助光が照射されます。カメラのAF補助光の照射も禁止したい場合、カメラ側でAF補助光の照射の禁止をセットしてください（詳細はF80シリーズ、ニコン*u2*およびニコン*u*の使用説明書をご覧ください）。

作例写真（調光補正 ☞P.39）

＋補正

補正無し

－補正

補正無し

応用撮影

バウンス撮影、増灯撮影など
応用的な撮影方法を説明しています。

バウンス撮影

被写体のすぐ後ろに壁などがある場合に、通常のスピードライト撮影を行うと、被写体の背後に強い影が出ることがあります（写真C）。このような場合、SB-50DXのフラッシュヘッドの向きを変えて天井や白壁などの反射面に向けて発光させ、その反射光によって被写体を照明すると影が弱まり、全体に光の回ったソフトな感じの撮影が行えます（写真A、B）。これをバウンス撮影といいます。SB-50DXでは、通常のバウンス撮影（1灯発光、写真B）以外に、スピードライト内蔵カメラと組み合わせて、SB-50DXと内蔵スピードライトの2灯が同時に発光するバウンス撮影（写真A）が可能です。スピードライト内蔵カメラと組み合わせた場合は、より自然な効果の得られる2灯発光によるバウンス撮影をおすすめします。バウンス撮影時はISO感度400程度の高感度（フィルム）の使用をおすすめします。

2灯発光によるバウンス撮影（天井でバウンス）

1灯発光によるバウンス撮影

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

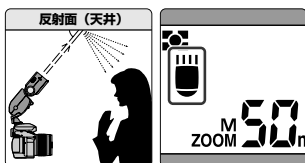
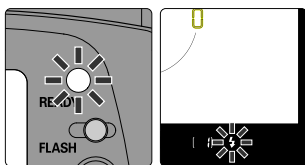
■フラッシュヘッドの回転角度

- フラッシュヘッドは、上方向90°から下方向18°の範囲でセットすることができます。

回転角度	上方向（0°＜90°）	正面（0°）	下方向（0°＞−18°）※1
クリック位置※2	90°、75°、50°	0°	−18°
表示パネル			
照射角	50mm（固定※3）	24〜50mm	14mm（ワイドパネル使用時※3､4）
ガイドナンバー（ISO100・m）	26（固定）	18〜26	12（固定※4）

※1：通常、下方向は近接撮影時に使用しますので、ワイドパネルを使用します（☞P.47）。
※2：クリック位置以外でも使用できます。
※3：オートパワーズームは作動しません（☞P.20）。
※4：ワイドパネルを使用しない場合、照射角は24mm、ガイドナンバーは18に固定されます。

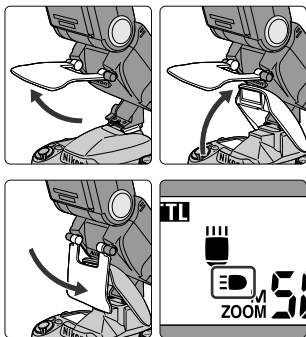
■1灯発光によるバウンス撮影　　　　（コラム：作例写真 ☞P.14）

1. SB-50DXをカメラに取り付け、カメラの露出モードを絞り優先オート（A）、またはマニュアル（M）にセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
2. 測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光に、シンクロモードを先幕シンクロにセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
   - ・通常の撮影では、先幕シンクロにセットしてください。
   - ・シンクロモードをセットすることができないカメラの場合は、自動的に先幕シンクロになります。
3. SB-50DXのMODEボタンを押して、発光モードをTTL／D-TTLモードにセットします（☞P.22）。
4. フラッシュヘッドをセットします。
   - ・フラッシュヘッドを上方向50°以上にセットして、天井（反射面）にバウンスさせるのが最も簡単な撮影方法ですが、この時、スピードライト光が直接被写体に当たらないように注意してください。
   - ・フラッシュヘッドと反射面との距離は、撮影状況にもよりますが、1〜2m前後が理想的です。

5. 絞りをセットします。
   - ・バウンス撮影時には、通常のスピードライト撮影時に比べ光量が低下しますので、絞りを2〜3段開放側（小さい数値の絞り）にセットしてください。
6. 構図を決めてピントを合わせ、レディライトの点灯を確認して撮影します。
   - ・撮影直後にSB-50DXおよびカメラのレディライトが約3秒間点滅して警告した場合（☞P.25）、SB-50DXがフル発光したことを示しています。この場合、露出不足のおそれがありますので、絞りを開放側（小さい数値の絞り）にセットするか、または被写体との距離（フラッシュヘッドと反射面との距離および反射面と被写体との距離の合計）を短くして、再度撮影することをおすすめします。

メモ 反射面

反射面は、白色で反射率の高いものを選んでください。反射面に色があると正しい発色が得られません。

応用撮影

■SB-50DXと内蔵スピードライトの2灯発光によるバウンス撮影（コラム：作例写真 ☞P.14）

1. SB-50DXをスピードライト内蔵カメラに取り付け、内蔵スピードライトに減光板を装着します。

・内蔵スピードライトの光が強すぎるとバウンスによる効果が得にくいため、減光板を使用します。内蔵スピードライトの光を弱め、より自然な効果が得られます。
・SB-50DXに収納されている減光板をイラストのように持ち上げた状態で、カメラの内蔵スピードライトを上げます（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。次に、減光板を静かに内蔵スピードライトの前面に装着してください。使用するカメラがニコンu2およびニコンuの時、露出モードをAUTO（AUTO）またはイメージプログラムにセットした場合、内蔵スピードライトが上がっていても、内蔵スピードライトは発光しません。
・内蔵スピードライトが内蔵スピードライト検出レバーにより検出され、SB-50DXの表示パネルに内蔵スピードライトを示すが点灯します。
・減光板を収納するには、上記の装着と逆の操作で行ってください。

2. 1灯発光によるバウンス撮影と同様に撮影します（☞P.45）。
   ・SB-50DXの発光モードをTTLモードにセットしてください（☞P.22）。

! 注意　F70Dの内蔵スピードライトを使用する場合の露出モード

F70Dの内蔵スピードライトを使用して2灯発光撮影を行う場合、内蔵スピードライトのモニター発光（☞P.31）をキャンセルする必要があります。露出モードをマニュアル（**M**）にセットしてモニター発光をキャンセルしてください（詳細はF70Dの使用説明書をご覧ください）。F80シリーズおよびニコンu2の内蔵スピードライトの場合、モニター発光は自動的にキャンセルされます。

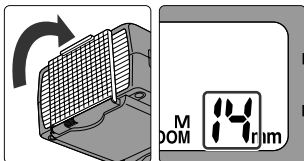
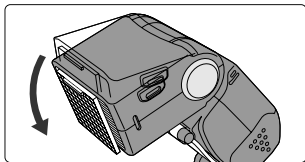
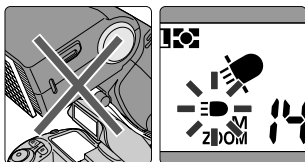
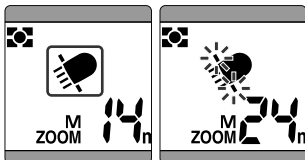
! 注意　F70Dまたはプロネア600iと組み合わせて使用する場合のご注意

SB-50DXとF70Dまたはプロネア600iを組み合わせて2灯発光撮影を行う場合、カメラと連動した電源のON／OFF（スタンバイ機能 ☞P.17）、各種警告時や充電完了時などのファインダー内レディライトとの連動（☞P.19・24・25）、オートパワーズームの作動（☞P.20）、アクティブ補助光の照射（☞P.40）などは行いません（表示パネルの**ZOOM**と**mm**が点滅して警告します ☞P.72）。照射角はマニュアルでセットしてください。また、シンクロモードを後幕シンクロにセットしても、後幕シンクロ撮影を行うことはできません（☞P.24）。

近接撮影

SB-50DXは、ワイドパネルをフラッシュヘッドに装着すると、カメラに取り付けたままで、0.3mまでの近接撮影が行えます。

■近接撮影　　（コラム：作例写真 ☞P.26）

1. SB-50DXをカメラに取り付け、カメラの露出モードを絞り優先オート（A）、またはマニュアル（M）にセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
2. 測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光に、シンクロモードを先幕シンクロにセットします（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
   - ・通常の撮影では、先幕シンクロにセットしてください。
   - ・シンクロモードをセットすることができないカメラの場合は、自動的に先幕シンクロになります。
3. SB-50DXのMODEボタンを押して、発光モードをTTL／D-TTLモードにセットします（☞P.22）。
4. ワイドパネルをフラッシュヘッドに装着します（☞P.21）。
   - ・ワイドパネルを装着すると、スピードライト光を拡散し、被写体の影をやわらげる効果があります。近接撮影を行う場合には必ず装着してください。
   - ・フラッシュヘッドの下部に収納されているワイドパネル全体をまっすぐ引き出して、装着してください。
   - ・照射角が自動的に14mmになり、オートパワーズームの作動は停止します。
   - ・ワイドパネルを収納するには、ワイドパネルを倒し、まっすぐ奥まで押し込んでください。

5. フラッシュヘッドをセットします。

・フラッシュヘッドを下方向18゜まで回転させます。
・表示パネルに が点灯します。
・フラッシュヘッドにワイドパネルが装着されていない場合、表示パネルにワイドパネルを示す が点滅して警告しますので、ワイドパネルを装着してください(☞P.21)。
・スピードライト内蔵カメラと組み合わせて使用する時、フラッシュヘッドを下方向に回転させた場合、内蔵スピードライトは使用できません。内蔵スピードライトが上がっている時は、SB-50DXの内蔵スピードライト検出レバーにより検出され、表示パネルに内蔵スピードライトを示す が点滅して警告しますので、内蔵スピードライトを下げてください。

6. 絞りをセットします。

・絞りは、下記の表と式から計算してセットしてください。

ISO感度	25	50	100	200	400	800
係数	1.4	2	2	4	4	5.6

絞り≧係数÷発光距離(フラッシュヘッドから被写体までの距離・m)

・例えば、ISO感度が100のフィルムで発光距離が0.5mの場合

絞り≧2÷0.5

となり、絞りは

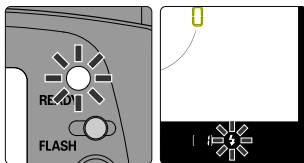
F4

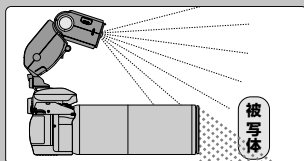
になります。

この場合、セットする絞りはF4となりますが、できるだけ計算で求めた絞りよりも数値の大きい絞り(F5.6やF8など)をセットしてください。

7. **構図を決めてピントを合わせ、レディライトの点灯を確認して撮影します。**

・撮影直後にSB-50DXおよびカメラのレディライトが約3秒間点滅して警告した場合（☞P.25）、SB-50DXがフル発光したことを示しています。この場合、露出不足のおそれがありますので、絞りを開放側（小さい数値の絞り）にセットして、再度撮影することをおすすめします。

・近接撮影時は、スピードライト光の配光や、使用するレンズ、焦点距離などにより、撮影画面の一部が光量不足になるケラレ現象が発生する場合がありますので、試し撮りをおすすめします。

! 注意 使用するレンズの制限

SB--50DXをカメラに取り付けて近接撮影を行う場合、レンズの長さが長いレンズを使用すると、レンズ本体がスピードライト光を遮る場合がありますので、ご注意ください。

増灯撮影

複数のスピードライトを併用する増灯撮影は、以下の場合などに効果的です。
- 被写体の影を弱めたり消したりする場合（☞P.63）
- 被写体の輪郭を強調する場合（☞P.64）
- サイド光を中心としたライティングを行う場合（☞P.65）
- 遠くの被写体までスピードライト光を届かせる場合（☞P.66）

SB-50DXでは、以下の方法で増灯撮影が行えます。
- TTLコードを使用しないワイヤレス増灯撮影（☞P.52）
- 赤外パネルSW-9IRを使用する赤外線リモートコマンダー撮影（☞P.57）
- スピードライト内蔵カメラと組み合わせた2灯発光撮影（☞P.58）
- TTLコードを使用する増灯撮影（☞P.59）

増灯撮影
（被写体の影を弱めたり消したりする場合）

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

● **増灯撮影時のカメラの各モードについて**

・露出モードを絞り優先オート（**A**）またはマニュアル（**M**）に、測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光に、シンクロモードを先幕シンクロにセットしてください（シンクロモードをセットすることができないカメラの場合は、自動的に先幕シンクロになります）。

! 注意　増灯撮影時のモニター発光のキャンセルについて

TTLモード（☞P.30）のマルチエリアBL調光（☞P.29）とすべてのD-TTLモード（☞P.31）は、モニター発光（☞P.31）により正しい露出のコントロールが行われませんので、ワイヤレス増灯撮影およびTTLコードを使用する増灯撮影でのマスタースピードライト（☞P.52）としては使用できません。下表のようにマスタースピードライトとして使用するスピードライトのモニター発光をキャンセルして、増灯撮影を行ってください。

マスタースピードライト		モニター発光のキャンセル方法
マルチエリアBL調光（Aグループカメラ ☞P.32）	**SB-80DX、50DX**	ワイヤレスモード（☞P.52）にセットしてください。
		MODEボタンを押してスタンダードTTL調光（☞P.30）にセットしてください。
		フラッシュヘッドを上方向にセットしてください。
	内蔵スピードライト（F80シリーズ、ニコン*u*2、F70D）	露出モードをマニュアル（**M**）にセットしてください（スタンダードTTL調光になります）。
	SB-28／28DX、27、26、25	スタンダードTTL調光にセットしてください。
		フラッシュヘッドを上方向にセットしてください。
すべてのD-TTLモード（デジタル一眼レフカメラ）	**SB-50DX**	キャンセルできません。
	SB-80DX、28DX	キャンセルできません（この場合、D-TTLモードではなく外部自動調光モードにセットすると、ワイヤレス増灯撮影時のマスタースピードライトとして使用することができます）。

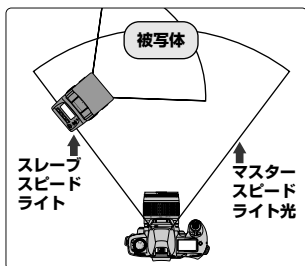
! 注意　COOLPIX5700以外のニコンクールピクスシリーズでは使用できません

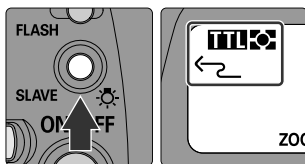
COOLPIX5700以外のニコンクールピクスシリーズでは、内蔵スピードライトをマスタースピードライトとしてワイヤレス増灯撮影を行うことはできません。

増灯撮影—ワイヤレス増灯撮影—

SB-50DXはワイヤレス増灯撮影が可能です。カメラに取り付けたSB-50DXなどのスピードライト、あるいはスピードライト内蔵カメラの内蔵スピードライト（マスタースピードライト[送信灯]）の発光開始・停止を、SB-50DX（スレーブスピードライト[受信灯]）のワイヤレススレーブセンサー窓で検知して、ワイヤレスでSB-50DXの発光開始・停止を行います。

■TTLによるワイヤレスオート増灯撮影

1. マスタースピードライトをカメラに取り付けます。
   ・スピードライトとカメラの電源をOFFにしてから取り付けてください。
2. スレーブスピードライトとしてSB-50DXを設置します。

・SB-50DXをマスタースピードライトのスピードライト光がSB-50DXのワイヤレススレーブセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に設置してください。
・ワイヤレスオート増灯撮影時の応答可能距離は約7mです。
・同時に使用できるスレーブスピードライト（SB-80DX、50DX、30またはSU-4を装着したスピードライト☞P.60）の台数に制限はありませんが、スレーブスピードライトのワイヤレススレーブセンサー窓に他のスレーブスピードライトの強い光が入ると正常動作しない場合があります。実用上、スレーブスピードライトは3台程度を目安にしてください。

3. 設置が完了したら、すべてのスピードライトとカメラの電源をONにしてください。

・銀塩フィルム式カメラでSB-50DXをマスタースピードライトとして使用する場合、SLAVEボタンを約1秒間押してワイヤレスモードにセットしてください。表示パネルに⮌が点灯されます。これにより、マルチエリアBL調光（☞P.29）でもモニター発光（☞P.31）を行いません。

4. マスタースピードライトの発光モードをTTLモードにセットします（☞P.22）。

・スピードライト内蔵カメラの内蔵スピードライトをマスタースピードライトとして使用する場合、内蔵スピードライトを上げてスピードライト撮影が可能な状態にしてください（詳細は使用するスピードライト内蔵カメラの使用説明書をご覧ください）。

・マスタースピードライトの発光モードに外部自動調光モードがある場合は、発光モードを外部自動調光モードにセットする事も可能です（詳細は発光モードに外部自動調光モードがあるスピードライトの使用説明書をご覧ください）。この場合も、マスタースピードライトの発光開始・停止をSB-50DX（スレーブスピードライト）のワイヤレススレーブセンサー窓で検知して、SB-50DXの発光開始・停止を行いますので、ニコンデジタル一眼レフカメラやTTLモードでの撮影機能を備えていないカメラ（NewFM2、FE10、FM10など）でもワイヤレスオート増灯撮影が行えます。

! 注意　モニター発光をキャンセルしてください

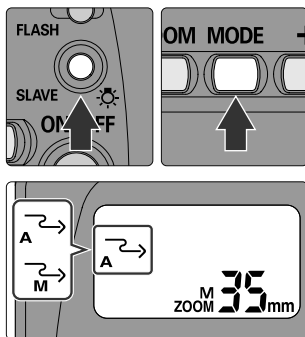
使用するカメラがAグループカメラ（☞P.32）の場合、マスタースピードライトとして使用するスピードライトのモニター発光をキャンセルしてください（☞P.51）。

5. SB-50DX（スレーブスピードライト）をワイヤレスモードにセットします。

・SB-50DXのSLAVEボタンを約１秒間押すと、表示パネルに[A]（ワイヤレスオートモード）または[M]（ワイヤレスマニュアルモード）が点灯します。[M]が点灯している場合は、MODEボタンを押して[A]に切り換え、ワイヤレスオートモードにセットしてくさだい。

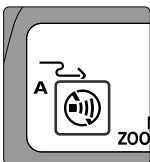
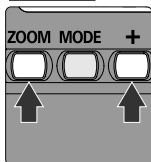
・ワイヤレスモードにセットすると、表示パネルの発光モード表示（☞P.22）が消灯します。

・ワイヤレスモード時にSB-50DXを操作しないまま、または発光後約1時間経過すると、スタンバイ機能（☞P.17）により電源は自動的にOFFになります。

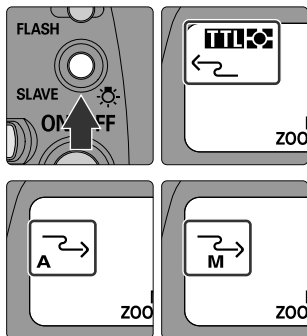
・ワイヤレスモードを解除する時は、もう一度SLAVEボタンを約1秒間押して、ワイヤレスモード表示の消灯を確認します（電源をOFFにしてもワイヤレスモードは解除されません）。

増灯撮影—ワイヤレス増灯撮影—

6. 通常のスピードライト撮影と同様に撮影します（☞P.24）。
   ・レディライトやサウンドモニタのブザー音により、充電完了や正常に発光したかどうか判定することが出来ます。下表をご覧ください。

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th>マスタースピードライト</th><th colspan="2">スレーブスピードライト</th></tr>
<tr><th>レディライト</th><th>レディライト</th><th>サウンドモニタ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>点灯</td><td>点灯</td><td>「ピー」と1回</td></tr>
<tr><td colspan="3">[判定] 充電完了</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td>点灯または消灯
（点滅していない）</td><td>点灯または消灯
（点滅していない）</td><td>「ピッピッ」と2回</td></tr>
<tr><td colspan="3">[判定] 正常発光</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>点滅</td><td>点滅</td><td>「ピーピーピー」と約3秒間</td></tr>
<tr><td colspan="3">[判定] マスタースピードライト、スレーブスピードライト共に、フル発光して適正露出が得られていないおそれがあります。被写体とスピードライトの距離や、絞りを変えて再度撮影することをおすすめします（☞P.25）。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>点灯または消灯
（点滅していない）</td><td>点滅</td><td>「ピーピーピー」と約3秒間</td></tr>
<tr><td colspan="3">[判定] スレーブスピードライトのみフル発光しています。スレーブスピードライトのワイヤレススレーブセンサー窓がマスタースピードライトの方向へ向いていなかったか、あるいはスレーブスピードライト自身の反射光や、他のスレーブスピードライトの光が強くワイヤレススレーブセンサー窓に入ったことにより、マスタースピードライトの発光停止をスレーブスピードライトが検知できなかったおそれがあります。この場合、ワイヤレススレーブセンサー窓の向きを再確認して撮影することをおすすめします。</td></tr>
</table>

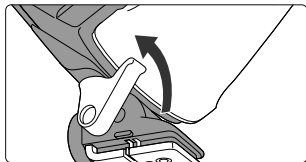
メモ サウンドモニタのキャンセル

サウンドモニタをキャンセルするには、**ZOOMボタンと+ボタン**を同時に押し、表示パネルにを点灯させてください。また、もう1度**ZOOMボタンと+ボタン**を同時に押し、を消灯させると、ブザー音が「ピッピッ」と2回鳴り、サウンドモニタが作動します。

メモ　ワイヤレスモードについて

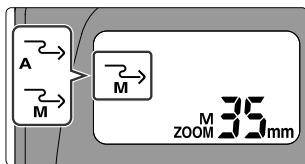
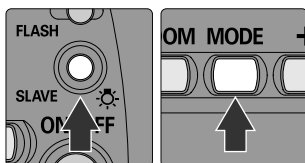
SB-50DXのSLAVEボタンを約1秒間押すと、ワイヤレスモードにセットされます。マスタースピードライトとして使用するためにカメラ（ニコンデジタル一眼レフカメラ以外）に取り付けた場合、表示パネルに⇜が点灯し、モニター発光（☞P.31）がキャンセルされます。これにより、マルチエリアBL調光（☞P.29）でもモニター発光を行いません。さらに、このままカメラから取り外すと、⇜は A⇝または M⇝に変わり、スレーブスピードライトとして使用できます。

注意　ワイヤレスモードにセットしたまま放置しないこと

カメラから取り外したSB-50DXをワイヤレスモードにセットしたまま放置すると、周囲の静電気や電磁波ノイズが原因で勝手に発光してしまう場合がありますので、使用しない時は必ず電源をOFFにしてください。

メモ　スレーブ発光を禁止（誤発光を防止）する場合

撮影会などでSB-50DX（スレーブスピードライト）を手で持ってワイヤレス増灯撮影を行う場合、周囲のスピードライトの発光に応答してSB-50DXが発光することがあります。これを防ぎたい時は、内蔵スピードライト検出レバーを指で押し上げてください。押し上げている間は発光しません。

増灯撮影—ワイヤレス増灯撮影—

■ワイヤレスマニュアル増灯撮影

- **遠く離れた（あるいは直接スピードライト光の届かない）所にセットしたSB-50DX（スレーブスピードライト）をワイヤレスで発光させる場合にワイヤレスマニュアルモードにセットします。この場合、SB-50DXはマスタースピードライトなど、他のスピードライトの発光を検知してフル発光します。**

・SB-50DXのSLAVEボタンを約１秒間押すと、表示パネルに（ワイヤレスオートモード）または（ワイヤレスマニュアルモード）が点灯されます。が点灯している場合は、MODEボタンを押してに切り換え、ワイヤレスマニュアルモードにセットしてくさだい。

・ガイドナンバー計算（☞P.37）の撮影距離に、SB-50DXから被写体までの距離をあてはめて絞りを算出してください（試し撮りをおすすめします）。

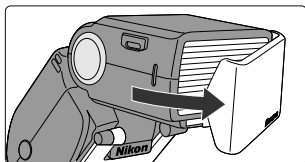
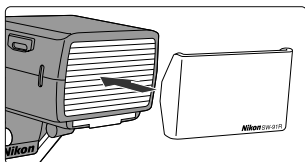
・SB-50DXをワイヤレスマニュアルモードにセットした場合の応答可能距離は約40mです。センサーの受信感度が高感度になるため、必ずしもワイヤレススレーブセンサー窓がマスタースピードライトに向いていなくても撮影が行える場合があります。

・マスタースピードライトにセットする発光モードはモニター発光（☞P.31）を行わないTTLモード（モニター発光のキャンセルについて ☞P.51）または外部自動調光モード、マニュアルモード（SB-50DXの場合はマニュアルフル発光 ☞P.35）のいずれでも構いません（発光モードは、使用するカメラ、スピードライトにより異なりますので、詳細はカメラおよびスピードライトの使用説明書をご覧ください）。

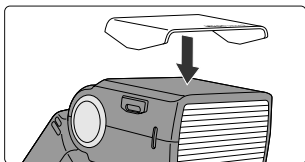
増灯撮影—赤外線リモートコマンダー撮影—

マスタースピードライトに赤外パネルSW-9IRを装着したSB-50DXを使用してワイヤレス増灯撮影を行うと、赤外線リモートコマンダー撮影が可能になります。この場合、SB-50DXのスピードライト光は赤外光になり、通常のフィルムには感光しないため、ワイヤレスモードのSB-80DX、50DX、30やSU-4の発光開始・停止のコントロールのみ行われ、スレーブスピードライトだけでライティングすることができます。

■赤外線リモートコマンダー撮影

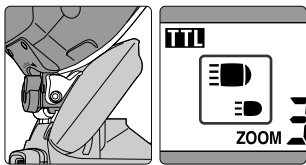
1. SB-50DXのフラッシュヘッドに赤外パネルSW-9IRを装着します。
   - ・SB-50DXに付属の赤外パネルSW-9IRを、フラッシュヘッド側面にある凹みに合わせて装着します。
   - ・取り外す時は、赤外パネルSW-9IRの片側を浮かせ、凹みから外してください。

2. SB-50DX（マスタースピードライト）をカメラに取り付けます。
   - ・スピードライトとカメラの電源をOFFにしてから取り付けてください。
   - ・スピードライト内蔵カメラの場合、内蔵スピードライトを使用しないでください。
3. 通常のワイヤレス増灯撮影と同様に撮影します（☞P.52）。
   - ・SB-50DX（マスタースピードライト）のSLAVEボタンを約1秒間押してワイヤレスモードにセットしてください（☞P.52）。
   - ・スレーブスピードライトには、SB-80DX、50DX、30またはSU-4（☞P.60）を装着したスピードライトを使用してください。
   - ・スレーブスピードライトの応答可能距離はワイヤレスオートモード（☞P.53）の場合は約7m、ワイヤレスマニュアルモード（☞左ページ）の場合は約40mになります。

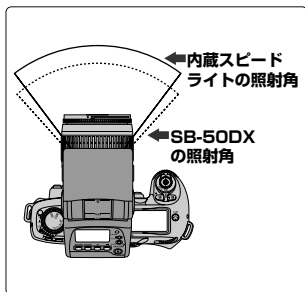
メモ　赤外パネルSW-9IRを携帯する場合

赤外パネルSW-9IRをSB-50DXのフラッシュヘッドの上面に取り付けることができます。取り付ける場合は、イラストのようにフラッシュヘッド側面にある凹みに合わせて取り付けてください。

増灯撮影 —2灯発光撮影—

SB-50DXとスピードライト内蔵カメラを組み合わせて使用する場合に、SB-50DXをアクセサリーシューに取り付けるだけで、簡単に2灯発光撮影が可能です。

■スピードライト内蔵カメラと組み合わせた2灯発光撮影（フラッシュヘッド正面位置）

1. SB-50DXをスピードライト内蔵カメラに取り付けて、内蔵スピードライトを上げます。

・フラッシュヘッドの位置を正面にセットしてください。
・カメラの内蔵スピードライトを上げてください（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。
・内蔵スピードライトが内蔵スピードライト検出レバーにより検出され、SB-50DXの表示パネルに2灯発光撮影時にフラッシュヘッドの位置が正面にセットされていることをを示す と内蔵スピードライトを示す が点灯します。

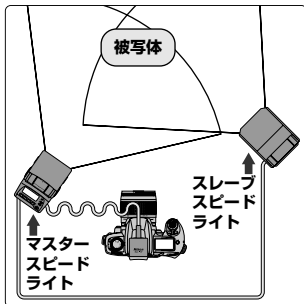
2. SB-50DXの照射角（☞P.20）をセットします（内蔵スピードライトの照射角については、使用するスピードライト内蔵カメラの使用説明書をご覧ください）。

・レンズは、内蔵スピードライトの照射角でカバーできる範囲の焦点距離のものを使用してください。また、ズームレンズの場合は、内蔵スピードライトの照射角でカバーできる範囲のズーム位置で使用してください。
・デジタルデータ通信を行うカメラ（☞P.20）とCPUレンズを組み合わせて使用する時、SB-50DXの照射角はオートパワーズーム（☞P.20）により自動的にセットされますが、オートパワーズームが作動しない組み合わせの場合は、レンズの焦点距離に合わせてマニュアルで照射角をセットしてください（☞P.21）。

3. 通常のTTLモードでのスピードライト撮影と同様に撮影します（☞P.24）。
   ・SB-50DXの発光モードをTTLモードにセットしてください（☞P.22）。
   ・2灯発光撮影時の合成ガイドナンバーについてはP.37の「ガイドナンバー」をご覧ください。
   ・使用するカメラがニコンu2およびニコンuの時、露出モードをAUTO（AUTO）またはイメージプログラムにセットした場合、内蔵スピードライトが上がっていても、内蔵スピードライトは発光しません。
   ・F70Dと組み合わせて使用する場合の露出モードについては、P.46の注意「F70Dの内蔵スピードライトを使用する場合の露出モード」をご覧ください。
   ・F70Dまたはプロネア600iと組み合わせて使用する場合は、P.46の注意「F70Dまたはプロネア600iと組み合わせて使用する場合の注意点」をご覧ください。

増灯撮影—TTLコードを使用する増灯撮影—

TTLコードを使用する増灯撮影では、使用するカメラやスピードライトにより機能や操作方法、接続方法が異なりますので、使用するカメラやスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■TTLコードを使用する増灯撮影

- すべてのスピードライトの電源をOFFにして、TTL増灯ターミナル間を、TTL増灯コードSC-18／SC-19（別売り ☞P.60）を使用して接続してください。
  - ・SB-50DXは、TTL増灯ターミナルを備えていませんので、TTL調光コードSC-17／SC-24（別売り ☞P.60）を使用してください。

! 注意　SB-50DXまたはSB-23をスレーブスピードライトとして使用する場合

TTLコードを使用する増灯撮影で、SB-50DXまたはSB-23をスレーブスピードライトとして使用する場合、スタンバイ機能が解除できないため、撮影途中でSB-50DXまたはSB-23の電源がOFFになってしまうおそれがあります。したがって、スレーブスピードライトとしての使用はおすすめできません。

! 注意　TTLコードを使用する増灯撮影の注意点

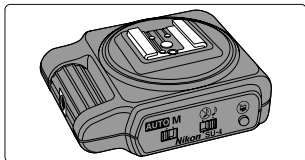
TTLコードを使用する増灯撮影の場合には、下記のスピードライトの（　）の係数の合計が、温度20℃の時は20、40℃の時は13を超えない範囲の組み合わせで使用してください（係数1につき70マイクロアンペアに相当します）。

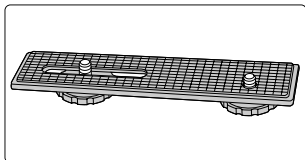
SB-80DX（1）、SB-50DX（1）、SB-30（1）、SB-29s（1）、SB-29（1）、SB-28（1）、SB-28DX（1）、SB-27（1）、SB-26（1）、SB-25（1）、SB-24（1）、SB-23（4）、SB-22（6）、SB-22s（6）、SB-21（4）、SB-20（9）、SB-17（4）、SB-16（4）、SB-15（4）、SB-14（1）、SB-11（1）、SB-140（1）

カメラのシンクロ回路への電流が一定以上になると、発光後に次の発光ができなくなることがあります。この場合、すべてのスピードライトの電源をOFFにするか、カメラに取り付けてあるスピードライトの電源をOFFにした後、カメラから取り外すと正常に戻ります。

増灯撮影—増灯アクセサリー—

増灯撮影を行う場合は、必要に応じて下記の増灯アクセサリー（別売り）を使用してください。

● スレーブフラッシュコントローラーSU-4

・ワイヤレス増灯撮影時に、SB-80DX、50DX、30以外のスピードライトを、スレーブスピードライトとして使用可能にします（☞P.52）。

● ブラケットSK-7

・増灯撮影時にカメラとSB-50DXを水平に並べてセットできるブラケットです。
・TTL増灯アダプターAS-10を使用して固定してください。

● TTL調光コードSC-17（約1.5m）／SC-24（約1.5m）

・SB-50DXをカメラから離してTTLモードでの撮影や増灯撮影に使用します。三脚取り付け用のネジ穴と2ケ所のTTL増灯ターミナルを備えています。DW-30、DW-31付きのF5、またはDW-20、DW-21付きのF4の場合はSC-24を使用してください。

● TTL増灯コードSC-18（約1.5m）／SC-19（約3m）

・AS-10やSC-17などの増灯ターミナルに接続してTTL増灯撮影を行う場合に使用します。

● TTL増灯アダプターAS-10

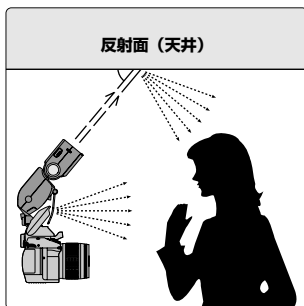
・TTL増灯コードを使用した増灯撮影時にTTL増灯ターミナルを備えていないスピードライトをスレーブスピードライトとして使用する場合に装着しますが、この目的でSB-50DXに使用することはおすすめできません（SB-50DXまたはSB-23をスレーブスピードライトとして使用する場合 ☞P.59）。三脚取り付け用のネジ穴を備えていますので、ワイヤレス増灯撮影時に三脚やブラケットSK-7などに固定する場合に使用してください。
・AS-10は3ケ所のTTL増灯ターミナルを備えています。

効果的なスピードライト設置例

増灯撮影時に、マスタースピードライトとスレーブスピードライトの位置や角度を工夫すると、より効果的なスピードライト撮影が行えます。

効果的なスピードライト設置例

■バウンスを併用して自然な感じの撮影を行う場合

- 増灯撮影時にスピードライトの光をバウンスさせることにより、撮影画面全体にスピードライト光が回った自然な感じのスピードライト撮影が行えます。

・バウンスさせるスピードライトのセット方法については、P.44の「バウンス撮影」をご覧ください。
・スピードライト内蔵カメラを使用する場合は、P.46の「SB-50DXと内蔵スピードライトの2灯発光によるバウンス撮影」をご覧ください。
・マスタースピードライトのスピードライト光が強すぎるとバウンスによる効果が得にくくなりますので、減光板（☞P.46）やワイドパネル（☞P.21）などを装着して、スピードライト光を弱めてください。

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

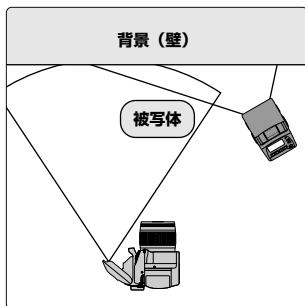
カメラ：F80D（絞り優先オート、先幕シンクロ）
レンズ：AFズームニッコール28～80mmF3.3～5.6G

マスタースピードライト（内蔵スピードライト）
：スタンダードTTL調光
スレーブスピードライト（SB-50DX）
：スタンダードTTL調光

■被写体の影を弱めたり消したりする場合

● 被写体のすぐ後ろに壁などがある場合に、通常のスピードライト撮影を行うと、強い影が出ることがあります。このような場合、スレーブスピードライトを背景に向けて発光させ、被写体の影を弱めたり消したりすることができます。

・スレーブスピードライトをマニュアルモード（SB-50DXの場合はワイヤレスマニュアルモード☞P.60）にセットします。次に、ガイドナンバー計算（☞P.37）の撮影距離に、スレーブスピードライトから背景の壁までの距離をあてはめて絞りを算出し、得られた絞りと同じ絞り、または1／3〜1段絞って撮影を行ってください。また、背景の壁全体を白く飛ばす場合は、得られた絞りよりも、2〜3段開けて撮影を行ってください。

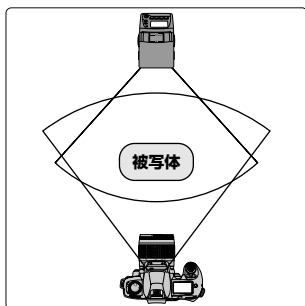
・使用するカメラがA、B、Cグループカメラの場合（☞P.32）、調光補正（☞P.39）を＋側に補正して撮影を行ってください。

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

カメラ：F80D（マニュアル、先幕シンクロ）
レンズ：AFズームニッコール28〜80mm F3.3〜5.6G

マスタースピードライト（内蔵スピードライト）
：スタンダードTTL調光
スレーブスピードライト（SB-50DX）
：ワイヤレスマニュアルモード

効果的なスピードライト設置例—つづき—

■被写体の輪郭を強調する場合

- 人物撮影などで、背後から被写体に向けてスピードライト光を強く発光させることで、被写体の輪郭を強調し、浮き立たせることができます。

・スレーブスピードライトをマニュアルモード（SB-50DXの場合はワイヤレスマニュアルモード ☞P.56）にセットしてください。

・使用するカメラがA、B、Cグループカメラの場合（☞P.32）、調光補正（☞P.39）を＋側に補正して撮影を行ってください。

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

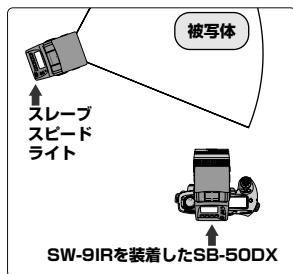
カメラ：F80D（マニュアル、先幕シンクロ）
レンズ：AFズームニッコール28〜80mmF3.3〜5.6G

マスタースピードライト（内蔵スピードライト）
：スタンダードTTL調光
スレーブスピードライト（SB-50DX）
：ワイヤレスマニュアルモード

■サイド光を中心としたライティングを行う場合

- 赤外線リモートコマンダー撮影（☞P.57）を行うことにより、スピードライトをカメラから外してサイド光を中心としたライティングが行えます。

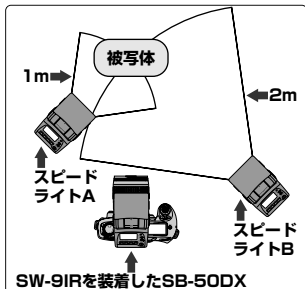
・撮影意図に合わせて、スピードライトを設置してください。

被写体
スレーブスピードライト
SW-9IRを装着したSB-50DX

カメラ ：F80D（絞り優先オート、先幕シンクロ）
レンズ ：AFズームニッコール28〜80mmF3.3〜5.6G

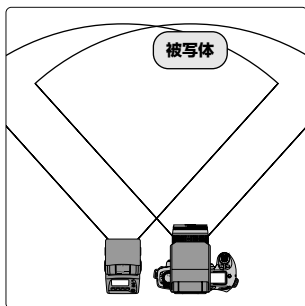
マスタースピードライト（SW-9IRを装着したSB-50DX）
：ワイヤレスモード（マルチエリアBL調光）
スレーブスピードライト（SB-50DX）
：ワイヤレスオートモード

マスタースピードライトからSW-9IRを外した場合

メモ 複数のスピードライトを使用する場合

スピードライトが被写体を照らす明るさは、スピードライトと被写体の距離の2乗に反比例します。イラストのように設置されたスピードライトA、Bが、同機種（または同じ照射角とガイドナンバー）の場合は、スピードライト光のバランスが「A：B＝1^2：2^2＝1：4」となり、スピードライトAはスピードライトBより4倍（2段分）明るく被写体を照らします。

効果的なスピードライト設置例—つづき—

■遠くの被写体までスピードライト光を届かせる場合

● 内蔵スピードライトや1灯のスピードライトだけでは十分な効果が得られない場合に、複数のスピードライトを併用することで、カメラから遠い位置にある被写体までスピードライト光を届かせることができます。

・スレーブスピードライトは、イラストのように、マスタースピードライトの真横に設置してください。ブラケットSK-7（別売り ☞P.60）を使用すると簡単に設置できます。
・複数のスピードライトを使用する場合の合成ガイドナンバーについては、P.37の「ガイドナンバー」をご覧ください。

通常のスピードライト撮影
（内蔵スピードライトのみ）

カメラ：F80D（絞り優先オート、先幕シンクロ）
レンズ：AFズームニッコール28～80mmF3.3～5.6G

マスタースピードライト（SB-28）
：スタンダードTTL調光
スレーブスピードライト（SB-50DX）
：ワイヤレスオートモード

資料編

SB-50DXの取り扱いについて

■SB-50DXをお手入れする際の注意

- SB-50DXのお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。また、SB-50DXの清浄にシンナーやベンジンなどの有機溶剤を使用しないでください。製品を破損する恐れがあります。
- まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルか点灯したり、黒く変色したりしますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

■強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

- テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、SB-50DXが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

■風通しの良い場所に保管してください。

- カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでSB-50DXを保管してください。
  - ・ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにSB-50DXを置かないでください。故障の原因になります。

■極端な温度変化は避けてください。

- 温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にSB-50DXを持ち込むと、SB-50DXの内外に水滴を生じます。SB-50DXをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

■保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

- 長期間SB-50DXを使用しないときは、電池の液漏れなどからSB-50DXを保護するために、SB-50DXから電池を取り出して保管してください。
  - ・保管する際は、SB-50DXをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。
  - ・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。
  - ・SB-50DXを長期間使用しないまま放置しておくと、カビやコンデンサーの劣化など故障の原因となることがありますので、1ヵ月に1度を目安に電源を入れて発光させてください。

電池の取り扱いについて

放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

■3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123Aタイプ）2本を使用してください。

- 電池は新品の3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123Aタイプ）を2本同時に使用してください。
  - ・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

■電池を入れるときは、SB-50DXの電源をOFFにしてください。

- 電池を入れるときは、SB-50DXの電源をOFFにしてから、＋－を間違いのないよう正しく入れてください。
  - ・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

■低温時には新しい電池を使用してください。

- 低温時に消耗した電池を使いますと、SB-50DXが作動しなくなることがあります。
- 低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。
  - ・低温時は、常温時より発光間隔が長くなり、発光回数も減少します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

故障かな？と思ったら

■SB-50DXの表示パネルに警告表示などが点滅した場合や、SB-50DXおよびカメラのレディライトが点滅した場合などは、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

- 各グループカメラについては、P.32の「TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラ」をご覧ください。

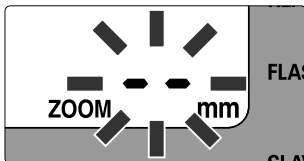
対象カメラ	表示の内容（症状）	原因	対処方法	参照ページ
各カメラ	レディライトが点灯しない。	電池の＋−が逆になっています。	電池を正しく入れ直してください。	P.16
		電池が消耗しています。	新しい電池に入れ直してください。	P.16
	電源が自動的にOFFになる。			
	近接撮影時、ワイドパネル表示が点滅する。	ワイドパネルが未装着、あるいは確実に装着されていません。	ワイドパネルを装着、あるいは確実に装着してください。	P.48
各カメラ（FE10をのぞく）	カメラのシャッターボタンを半押しした時、カメラのファインダー内レディライトのみが点滅している。	SB-50DX（TTL／D-TTLモード時）が確実に取り付けられていません。	SB-50DXを確実に取り付けてください。	P.19
TTL／D-TTLモードでの撮影が可能なカメラ	TTL／D-TTLモード時、発光直後にレディライトが約3秒間点滅する。	フル発光しています（露出不足のおそれがあります）。	絞りを開放側（小さな値）にセットするか、被写体に近づいて撮影してください。	P.25
スピードライト内蔵カメラ	近接撮影時、内蔵スピードライト表示が点滅する。	内蔵スピードライトが上がっています。	内蔵スピードライトを下げて発光しないようにしてください。	P.48
Aグループ デジタル一眼レフ	TTL◎（デジタル一眼レフの場合はD TTL◎）が点灯しない。	非CPUレンズが装着されています。	CPUレンズを装着するか、他の発光モードで撮影してください。	P.13 P.29
		他の発光モードにセットされています。	マルチエリアBL調光にセットしてください。	P.22
		測光モードがスポット測光にセットされています（F90Xシリーズ、F90シリーズ、F70D以外を使用の場合）。	測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光にセットしてください。	P.22

対象カメラ	表示の内容(症状)	原因	対処方法	参照ページ
Aグループ デジタル一眼レフ	レディライトと◢が点滅する。	フル発光しています(露出不足のおそれがあります)。	露出不足量の目安を参考に、絞りを開放側(小さな値)にセットするか、被写体に近づいて撮影してください。	P.25
Bグループ	TTL ▣ が点灯しない。	非CPUレンズが装着されています(F4シリーズ以外を使用の場合)。	CPUレンズを装着するか、他の発光モードで撮影してください。	P.13 P.29
		他の発光モードになっています。	TTL-BL調光にセットしてください。	P.22
		測光モードがTTL-BL調光で使用できない測光モードにセットされています。	測光モードをマルチパターン測光または中央部重点測光にセットしてください。	P.22
E、Fグループ(AS-17を装着したF3シリーズ、FM3Aをのぞく)	カメラに取り付け電源をONにした時(TTLモード時)、カメラのファインダー内レディライトが点滅する。	カメラに入れたフィルムのISO感度、またはカメラにセットしたISO感度が高感度側にフィルム(撮像)感度連動範囲外です(FAは低感度側の場合も警告します)。	ISO感度がフィルム(撮像)感度連動範囲内のフィルムを使用、またはカメラにフィルム(撮像)感度連動範囲内のISO感度をセットするか、マニュアルフル発光撮影を行ってください。	P.19 P.35
Fグループ (AS-17を装着したF3シリーズ、FE2、FGをのぞく)	カメラのファインダー内レディライトのみが点滅している。	TTLモード時、シャッタースピードがM90やM250、Bにセットされています。	シャッタースピードをM90やM250、B以外にセットしてください。	
FM3A NewFM2	カメラのファインダー内レディライトのみが点滅している。	シャッタースピードが同調シャッタースピードより高速側にセットされています。	シャッタースピードを同調シャッタースピードまたは同調シャッタースピードより低速側にセットしてください。	
TTL/D-TTLモードでの撮影が可能でないカメラ	カメラのファインダー内レディライトのみが点滅している。	SB-50DXがTTLモードにセットされています。	マニュアルフル発光にセットしてください。	P.19 P.35

故障かな？と思ったら –つづき–

■マイクロコンピュータの特性

● SB-50DXの制御は、主にマイクロコンピュータによって電子的に行われています。マイクロコンピュータの特性として、極めて稀に、十分容量のある電池が正しく装填されていてもSB-50DXが正しく作動されなかったり、異常な表示が出たりすることがあります。このような場合は、電源をONにしたまま電池を入れ直し、作動させてください。

■表示パネルの異常表示

● 表示パネルの照射角表示に- -が点滅した場合は、照射角がセットできません。

● 上記のような状態になった場合は、SB-50DX、カメラとも電源をOFFにし、SB-50DXをカメラから取り外してもう一度取り付け直し、SB-50DX、カメラとも電源をONにしてみてください。この操作を行っても改善されない場合は、当社サービス部門にお問い合わせください。

■表示パネルのZOOMとmmの点滅について

● F70DまたはプロネアA600iを組み合わせて2灯発光撮影（☞P.46・58）を行う場合、表示パネルの**ZOOM**と**mm**が点滅しますが異常ではありません。P.46の注意「F70Dまたはプロネア600iと組み合わせて使用する場合の注意点」をご覧ください。

● F80シリーズおよびニコン*u2*と組み合わせて2灯発光撮影を行う時、極めて稀に、オートパワーズーム（☞P.20）が正しく作動しないことがあります。このような場合は、表示パネルの**ZOOM**と**mm**が点滅して警告しますので、SB-50DXの電源をOFFにし、もう一度ONにしてください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしております。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
- 当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■補修用性能部品について

SB-50DXの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年間を目安としています。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。
- 水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。
② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご購入者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。
③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。
④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。
⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。
⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕様

<table>
<tr><td>形式</td><td>直列制御方式TTL自動調光スピードライト</td></tr>
<tr><td>ガイドナンバー
（ISO100・m）</td><td>ISO感度100・マニュアルフル発光時
<table>
<tr><td>照射角</td><td>14mm</td><td>24mm</td><td>28mm</td><td>35mm</td><td>50mm</td></tr>
<tr><td>ガイドナンバー</td><td>12</td><td>18</td><td>20</td><td>22</td><td>26</td></tr>
</table>
● 1／300高速シンクロ時のガイドナンバーはP.37をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>照射角度</td><td>4段階（ワイドパネル使用時は14mmに固定）に切り換え可能
<table>
<tr><td rowspan="2">ズームセット位置</td><td rowspan="2">照射角</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>垂直方向</td><td>水平方向</td></tr>
<tr><td>14mm
（ワイドパネル使用時）</td><td>14mmレンズの画角をカバー</td><td>87°</td><td>106°</td></tr>
<tr><td>24mm</td><td>24mmレンズの画角をカバー</td><td>60°</td><td>78°</td></tr>
<tr><td>28mm</td><td>28mmレンズの画角をカバー</td><td>53°</td><td>70°</td></tr>
<tr><td>35mm</td><td>35mmレンズの画角をカバー</td><td>45°</td><td>60°</td></tr>
<tr><td>50mm</td><td>50mmレンズの画角をカバー</td><td>34°</td><td>46°</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>閃光時間</td><td>約1／1800秒（マニュアルフル発光時）</td></tr>
<tr><td>フラッシュヘッドの回転角度</td><td>上方向90°～正面～下方向18°（上方向90°、75°、50°、正面、下方向18°位置にクリックあり）</td></tr>
<tr><td>電源スイッチ</td><td>ON／OFFの切り換え式
ON／OFFボタンを約0.3秒間押す操作により電源のON／OFF
● スタンバイ機能によりSB-50DXの操作をしないまま約40秒間経過すると電源は自動的にOFF</td></tr>
<tr><td>発光モード</td><td>MODEボタンによる切り換え
<table>
<tr><td>TTL ◎</td><td rowspan="3">TTLモード</td><td>マルチエリアBL調光</td></tr>
<tr><td>TTL 🖼</td><td>TTL-BL調光</td></tr>
<tr><td>TTL</td><td>スタンダードTTL調光</td></tr>
<tr><td>D TTL ◎</td><td rowspan="3">D-TTLモード</td><td>D-マルチエリアBL調光</td></tr>
<tr><td>D TTL 🖼</td><td>簡易D-TTL-BL調光</td></tr>
<tr><td>D TTL</td><td>スタンダードD-TTL調光</td></tr>
<tr><td>M</td><td colspan="2">マニュアルフル発光</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>使用電池</td><td>3VリチウムCR123AまたはDL123Aタイプを2本使用</td></tr>
<tr><td>発光間隔／
発光回数
（マニュアル
フル発光時）</td><td>最短発光間隔：電池初期で約3.5秒
発光回数と発光間隔：3.5～30秒で260回以上
（アクティブ補助光・オートパワーズーム・表示パネルのイルミネーター非使用時）</td></tr>
<tr><td>アクティブ
補助光</td><td>被写体が低輝度時にはオートフォーカスによるピント合わせを可能にするための補助光を自動照射（オートフォーカスカメラのみ）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>レディライト</td><td>点灯：充電完了時
点滅：フル発光時の露出警告（TTLモード時）</td></tr>
<tr><td>FLASHボタン</td><td>テスト発光可能
● スタンバイ機能による電源自動OFF時に押すと電源ON</td></tr>
<tr><td>ワイドパネル</td><td>焦点距離14mmのレンズの画角をカバー</td></tr>
<tr><td>減光板</td><td>2灯発光（バウンス）撮影時に内蔵スピードライトに装着</td></tr>
<tr><td>サウンドモニタ</td><td>ワイヤレス増灯撮影時にブザー音1回：充電完了
ワイヤレスオート増灯撮影時にブザー音2回：正常発光
ワイヤレスオート増灯撮影時にブザー音約3秒間：フル発光警告</td></tr>
<tr><td>ワイヤレス
スレーブ
センサー感度</td><td>ワイヤレス増灯撮影時にマスタースピードライトの発光を検知
<table><tr><td>ワイヤレスモード</td><td>応答可能距離</td></tr><tr><td>ワイヤレスオート</td><td>約7m</td></tr><tr><td>ワイヤレスマニュアル</td><td>約40m</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>赤外パネル
SW-9IR</td><td>赤外線リモートコマンダー撮影時にフラッシュヘッドに装着</td></tr>
<tr><td>ロックレバー</td><td>ロックプレートによりアクセサリーシューからの脱落を防止</td></tr>
<tr><td>表示パネル
イルミネーター</td><td>イルミネーター／SLAVEボタンを押すごとに点灯・消灯（点灯から約16秒後に自動消灯）</td></tr>
<tr><td>背面表示</td><td>蓄光性塗料を使用</td></tr>
<tr><td>大きさ</td><td>約63mm（幅）×107mm（高さ）×105mm（奥行）</td></tr>
<tr><td>質量（重さ）</td><td>約235ｇ（電池を除く）</td></tr>
<tr><td>付属品</td><td>ソフトケース SS-50
赤外パネル SW-9IR</td></tr>
</table>

索引

■五十音順

● 操作ボタン・レバーおよび表示等は、各部の名称（☞P.10）表示パネル（☞P.12）をご覧ください。

■アフターサービスのご案内

◆サービス部では、修理品の直接受け付けならびに受け渡しに関する業務は行っておりません。

■使い方に関するお問い合わせのご案内

ニコンフィルムカメラ、交換レンズ、アクセサリーの使い方に関するお問い合わせをお受けしております。

<ニコンカスタマーサポートセンター>

0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30～18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）

・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

Printed in China　　KL3C03(10)